

海老名市  
えびな高齢者プラン21【第10期】  
アンケート調査報告書

令和8年3月

海老名市



# 目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査対象	3
3. 調査方法	4
4. 配付・回収状況	4
5. 調査結果を見るうえでの注意事項	5
第2章 単純集計結果（①介護予防・日常生活圏域二一ズ調査）	7
調査票の回答者	9
1. ご家族や生活状況	10
2. からだを動かすこと	15
3. 食べること	27
4. 毎日の生活	34
5. 地域での活動	46
6. たすけあい	48
7. 健康	53
8. 介護予防・認知症施策	58
9. 市の施策・事業、介護保険制度	66



# 第1章 調査の概要



## 1. 調査実施の目的

令和8年度に策定する「えびな高齢者プラン21【第10期】」の資料とするため、高齢者等の生活実態や意向を把握し、計画策定に反映していくこと、また、日常生活圏域ごとの実態も把握、地域の実情に応じた取組に活かしていくことを目的として実施した。

## 2. 調査対象

調査名		対象者
調査1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査		65歳以上の高齢者 (要介護認定者を除く)
調査2 在宅介護実態調査		65歳以上の高齢者のうち、在宅生活をしている要支援認定者及び要介護認定者
調査3 在宅生活改善調査	事業所票	居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所の 代表者または管理者
	利用者票	
調査4 居所変更実態調査		施設・居住系サービス事業所（サービス付高齢者住宅、住宅型有料老人ホーム）の 代表者または管理者
調査5 介護人材実態調査	<施設系・通所系> 事業所票	施設・居住系サービス、通所系サービス、 訪問系サービスの 代表者または管理者
	<訪問系> 事業所票	小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の 代表者または管理者
	<訪問系> 職員票	小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の 職員個人

### 3. 調査方法

調査名	調査対象
調査1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	郵送配布／郵送回収
調査2 在宅介護実態調査	
調査3 在宅生活改善調査	
調査4 居所変更実態調査	
調査5 介護人材実態調査	

### 4. 配付・回収状況

調査名		配布数	回収数	回収率
調査1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査		5,635 件	4,100 件	72.8%
調査2 在宅介護実態調査		1,173 件	658 件	56.3%
調査3 在宅生活改善調査	事業所票	32 件	21 件	65.6%
	利用者票	32 件	21 件	65.6%
調査4 居所変更実態調査		46 件	31 件	67.4%
調査5 介護人材実態調査	<施設系・通所系> 事業所票	78 件	51 件	65.4%
	<訪問系> 事業所票	78 件	22 件	28.2%
	<訪問系> 職員票	各 10 件	166 件	21.3%

## 5. 調査結果を見るうえでの注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30件未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・報告書内に圏域別で分析している設問があるが、区域は地域包括支援センターの管轄区域となっている。

圏域名	区域	地域包括支援センター
第1圏域 北	上今泉、下今泉、上郷、扇町、泉、めぐみ町	海老名北地域包括支援センター
第2圏域 東	柏ヶ谷、東柏ヶ谷、望地	海老名東地域包括支援センター
第3圏域 中央	国分南、国分北、中央、勝瀬	海老名中央地域包括支援センター
第4圏域 さつき	中新田、さつき町、河原口、社家	さつき町地域包括支援センター
第5圏域 国分寺台	大谷、大谷北、大谷南、浜田町、国分寺台	国分寺台地域包括支援センター
第6圏域 南	中河内、中野、今里、上河内、杉久保北、杉久保南、本郷、門沢橋	海老名南地域包括支援センター

## 第1章 調査の概要

## 第2章 単純集計結果（①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

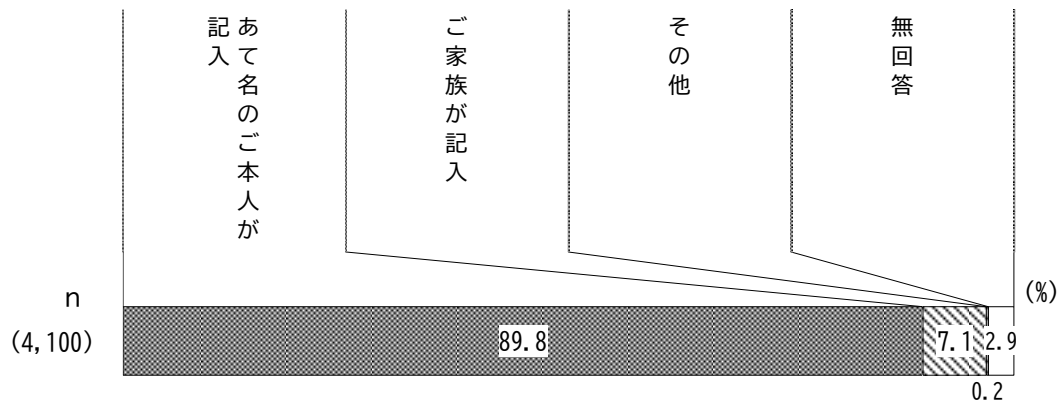


## 調査票の回答者

### (1) 回答者

Q. 調査票を記入されたのはどなたですか (1つだけ○)

「あて名のご本人が記入」が 89.8%で最も多く、次いで、「ご家族が記入」(7.1%)となっている。

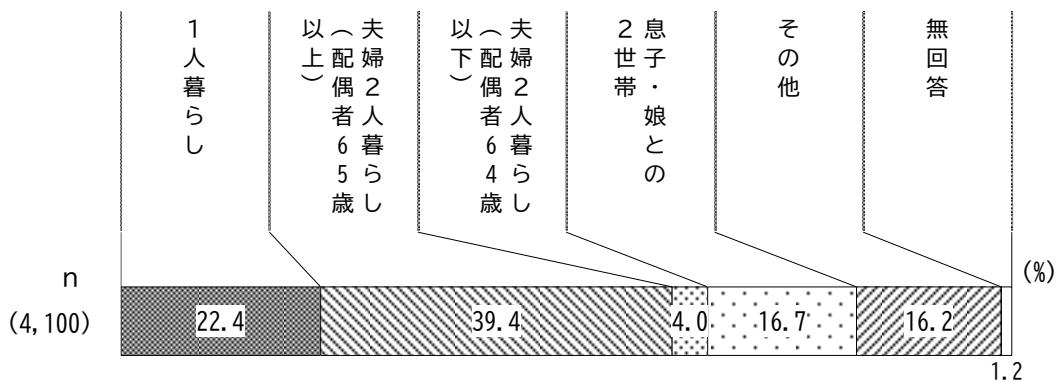


## 1. ご家族や生活状況

### (1) 家族構成

Q1. 家族構成を教えてください (1つだけ○)

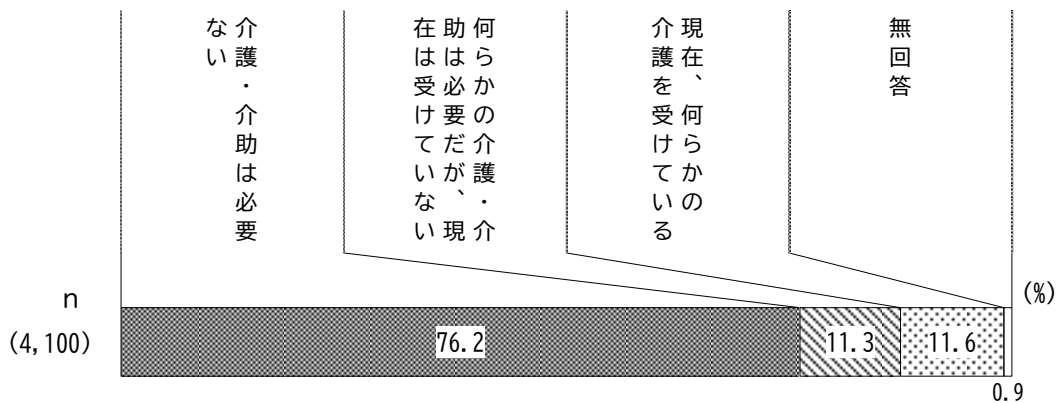
「夫婦2人暮らし (配偶者 65歳以上)」が39.4%で最も多く、次いで、「1人暮らし」(22.4%)、「息子・娘との2世帯」(16.7%)、「夫婦2人暮らし (配偶者 64歳以下)」(4.0%)となっている。



### (2) 介護・介助の必要性

Q2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (1つだけ○)

「介護・介助は必要ない」が76.2%で最も多く、次いで、「現在、何らかの介護を受けている」(11.6%)、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(11.3%)となっている。

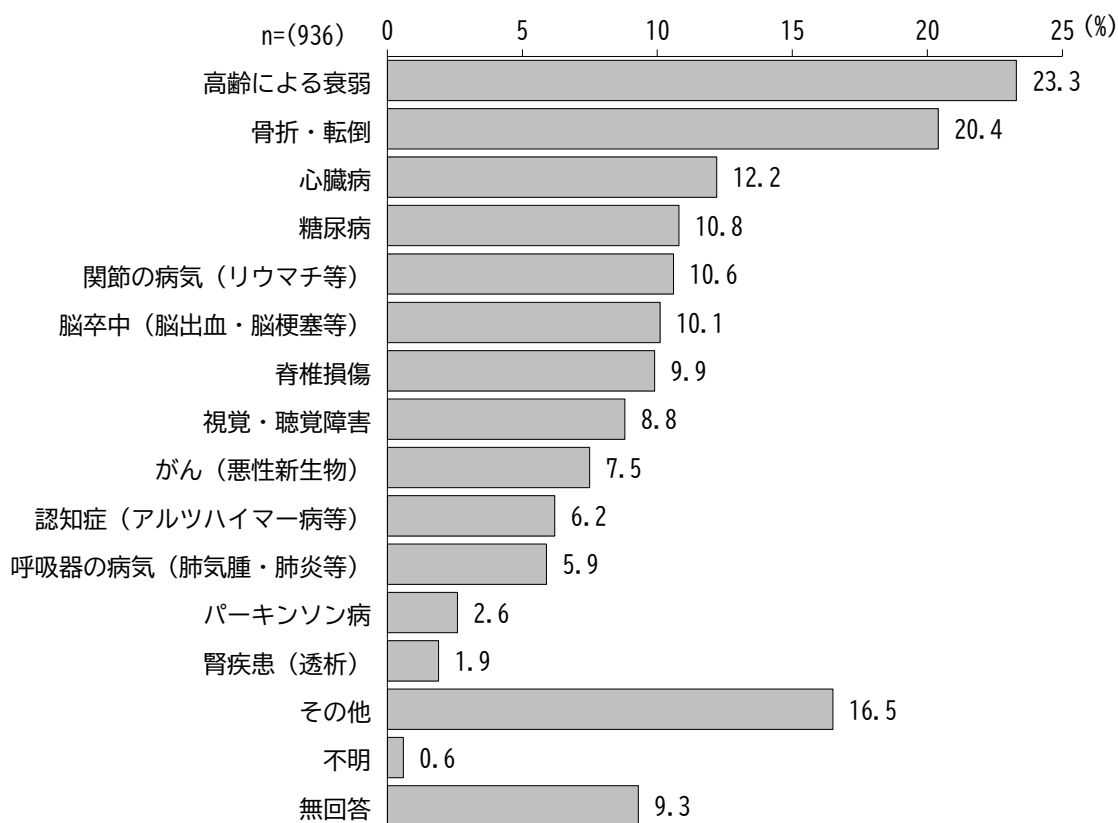


(3) 介護・介助が必要になった主な原因

【Q2において「2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」  
「3 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

Q2-①. 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか (いくつでも○)

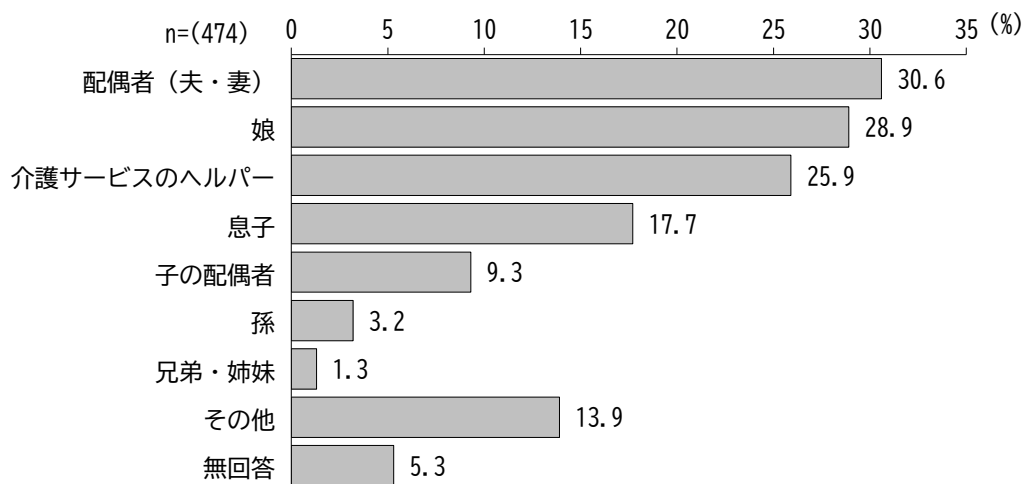
「高齢による衰弱」が 23.3%で最も多く、次いで、「骨折・転倒」(20.4%)、「心臓病」(12.2%)、「糖尿病」(10.8%)、「関節の病気(リウマチ等)」(10.6%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(10.1%)となっている。



(4) 主な介護・介助者

【Q2において「3 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】  
Q2-②. 主にどなたの介護・介助を受けていますか (いくつでも○)

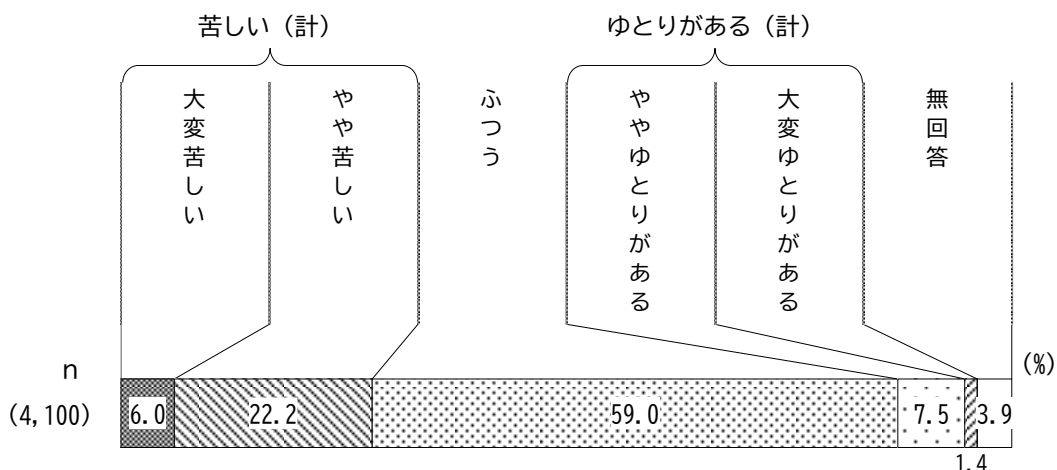
「配偶者 (夫・妻)」が30.6%で最も多く、次いで、「娘」(28.9%)、「介護サービスのヘルパー」(25.9%)、「息子」(17.7%)となっている。



(5) 暮らし向き

Q3. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (1つだけ○)

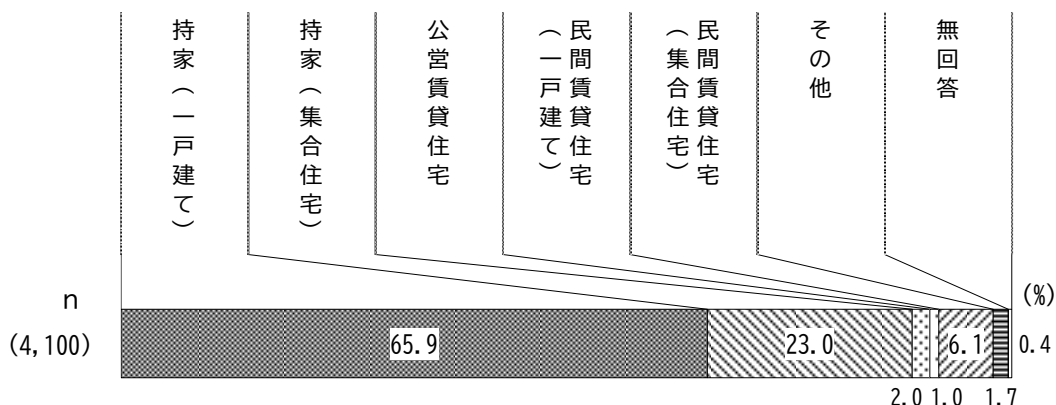
現在の暮らし向きについては、「ふつう」が59.0%で最も多い。「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた『苦しい (計)』は28.2%、「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある (計)』は8.9%となっている。



(6) 住居形態

Q4. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (1つだけ○)

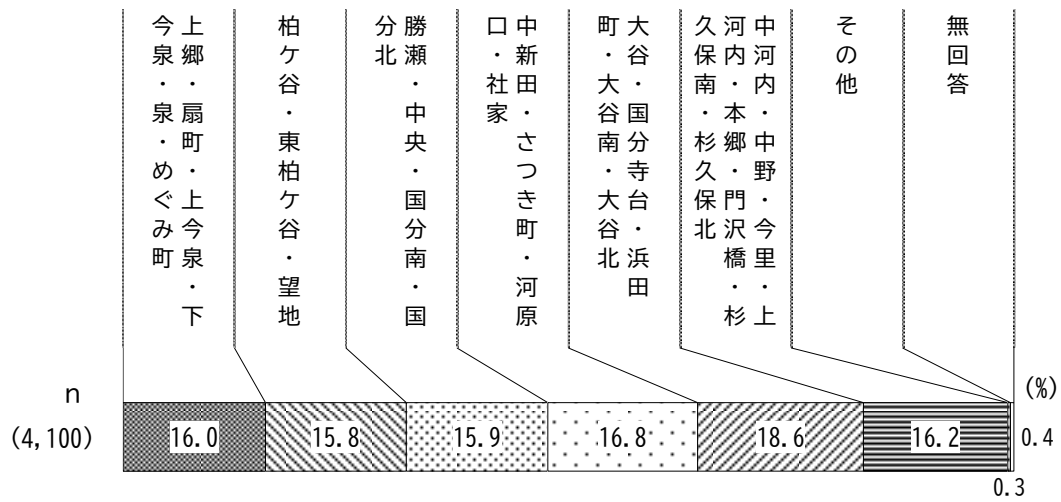
「持家 (一戸建て)」が65.9%で最も多く、次いで、「持家 (集合住宅)」(23.0%)、「民間賃貸住宅 (集合住宅)」(6.1%)、「公営賃貸住宅」(2.0%)となっている。



(7) 居住地域

Q5. 現在住んでいる地域はどちらですか (1つだけ○)

「大谷・国分寺台・浜田町・大谷南・大谷北」が18.6%で最も多く、次いで、「中新田・さつき町・河原口・社家」(16.8%)、「中河内・中野・今里・上河内・本郷・門沢橋・杉久保南・杉久保北」(16.2%)、「上郷・扇町・上今泉・下今泉・泉・めぐみ町」(16.0%)となっている。

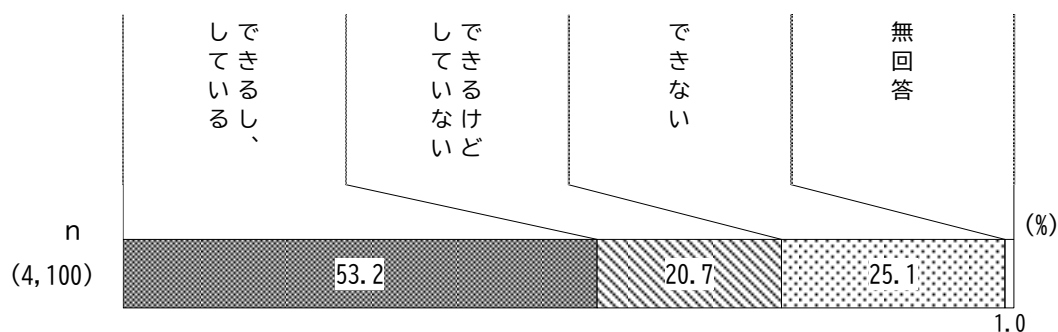


## 2. からだを動かすこと

### (1) 階段の昇降

Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (1つだけ○)

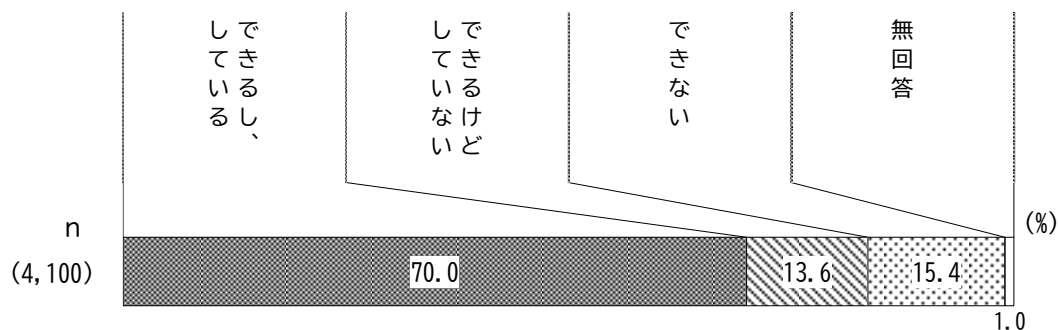
「できるし、している」が 53.2%で最も多く、次いで、「できない」(25.1%)、「できるけどしていない」(20.7%) となっている。



### (2) 椅子からの立ち上がり

Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (1つだけ○)

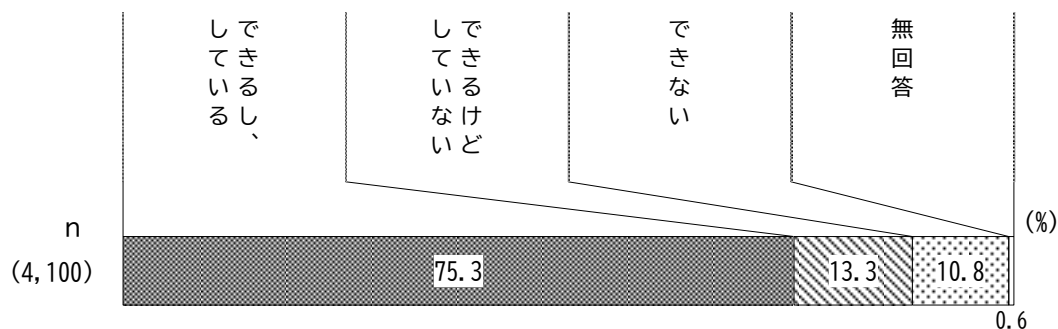
「できるし、している」が 70.0%で最も多く、次いで、「できない」(15.4%)、「できるけどしていない」(13.6%) となっている。



### (3) 15分間の歩行

Q3. 15分位続けて歩いていますか (1つだけ○)

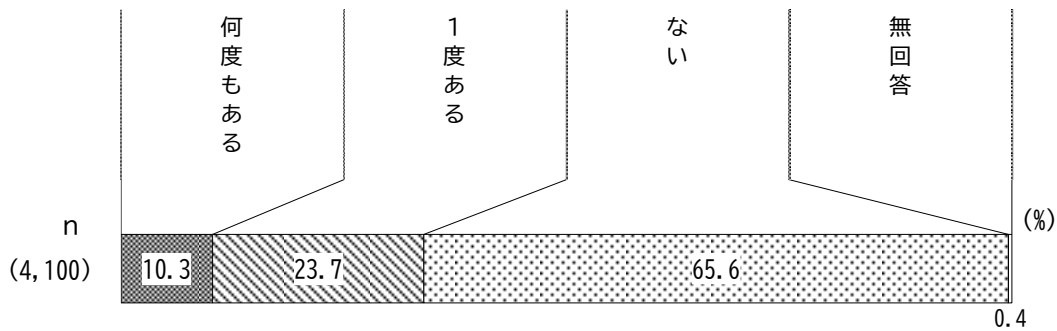
「できるし、している」が 75.3%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」(13.3%)、「できない」(10.8%) となっている。



(4) 転倒の有無

Q4. 過去1年間に転んだ経験がありますか (1つだけ○)

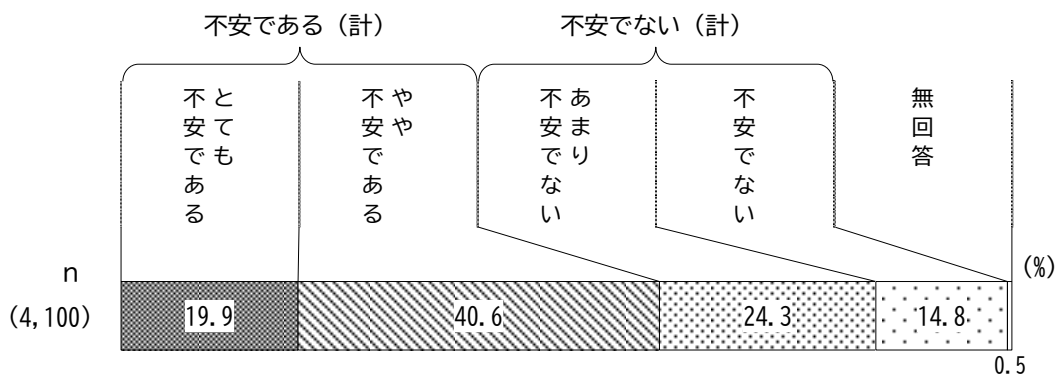
「ない」が65.6%で最も多く、次いで、「1度ある」(23.7%)、「何度もある」(10.3%)となっている。



(5) 転倒に対する不安

Q5. 転倒に対する不安は大きいですか (1つだけ○)

「やや不安である」が40.6%で最も多く、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である (計)』は60.5%となっている。また、「あまり不安でない」と「不安でない」を合わせた『不安でない (計)』は39.1%であった。



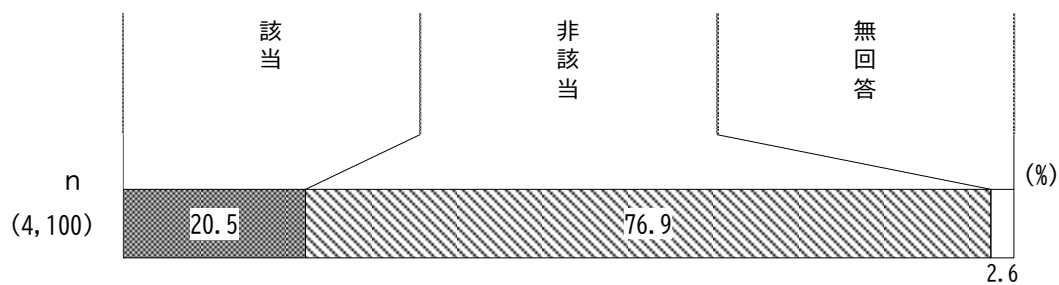
<運動器の機能低下リスク>

下記の5項目中、3項目以上に該当する場合、『運動器機能が低下している高齢者』（運動器の機能低下リスクあり）としています。

- ・階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができない（Q1）
- ・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない（Q2）
- ・15分位続けて歩くことができない（Q3）
- ・過去1年間に転んだ経験が、何度もある、あるいは、1度ある（Q4）
- ・転倒に対して、とても不安である、あるいは、やや不安である（Q5）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

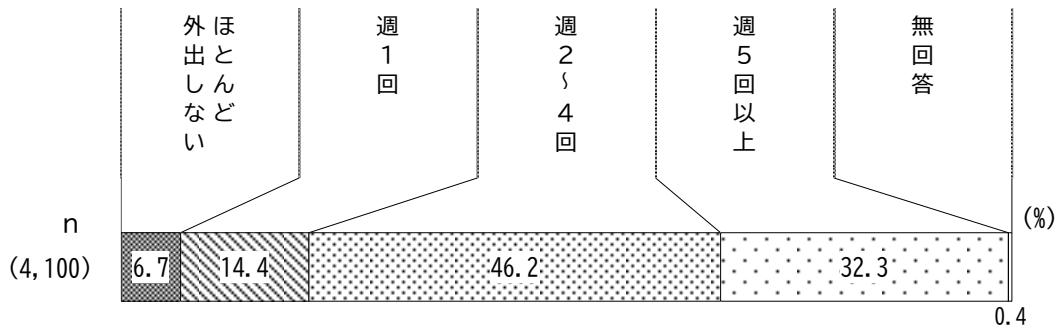
運動器の機能低下リスクに「該当」は20.5%、は「非該当」は76.9%となっている。



(6) 外出頻度

Q6. 週に1回以上は外出していますか (1つだけ○)

「週2～4回」が46.2%で最も多く、次いで、「週5回以上」(32.3%)、「週1回」(14.4%)、「ほとんど外出しない」(6.7%)となっている。

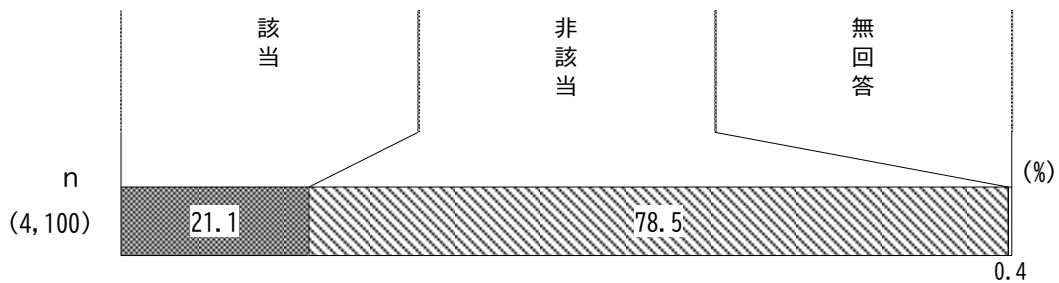


<閉じこもり傾向>

Q6 (外出頻度) で、「ほとんど外出しない」「週1回」と回答した人を『閉じこもり傾向がある高齢者』としています。

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き (令和7年8月)

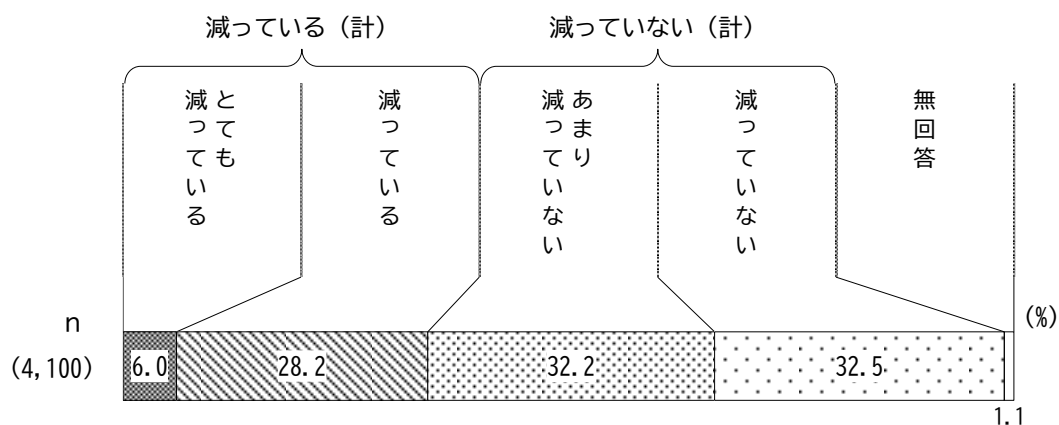
閉じこもり傾向があるに「該当」が21.1%、「非該当」は78.5%となっている。



(7) 外出回数の減少

Q7. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (1つだけ○)

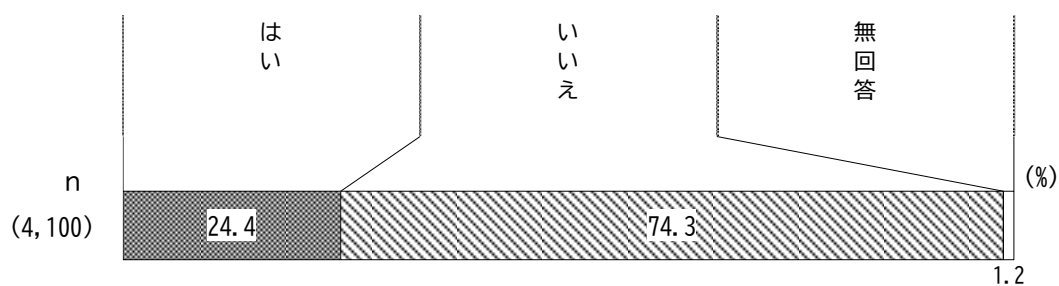
「あまり減っていない」と「減っていない」を合わせた『減っていない (計)』が 64.7%、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている (計)』は 34.2%となっている。



(8) 外出控え

Q8. 外出を控えていますか (1つだけ○)

「はい」が 24.4%、「いいえ」は 74.3%となっている。

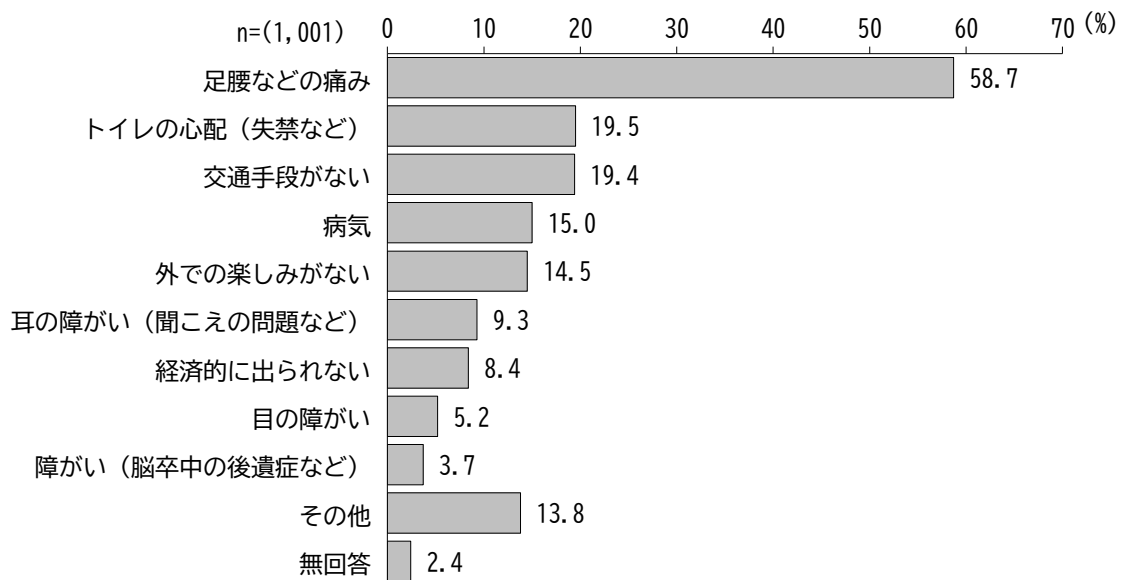


（9）外出を控えている理由

【Q8で「1 はい」（外出を控えている）の方のみ】

Q8-①. 外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも○）

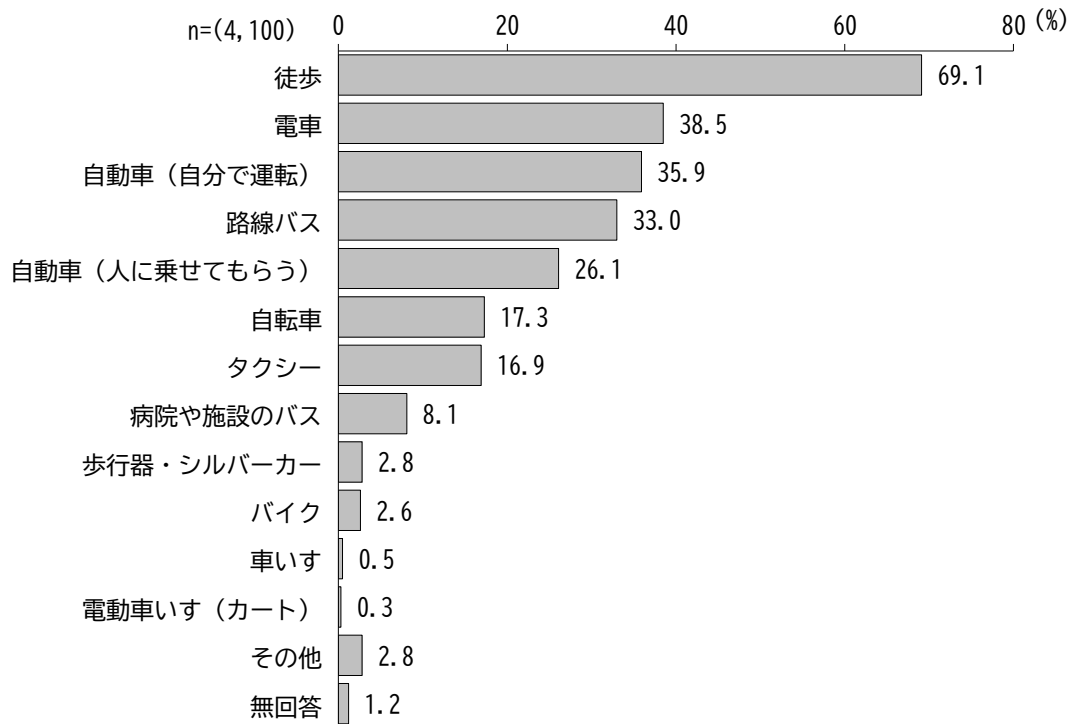
「足腰などの痛み」が58.7%で最も多く、次いで、「トイレの心配（失禁など）」（19.5%）、「交通手段がない」（19.4%）、「病気」（15.0%）、「外での楽しみがない」（14.5%）となっている。



(10) 外出する際の移動手段

Q9. 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも○)

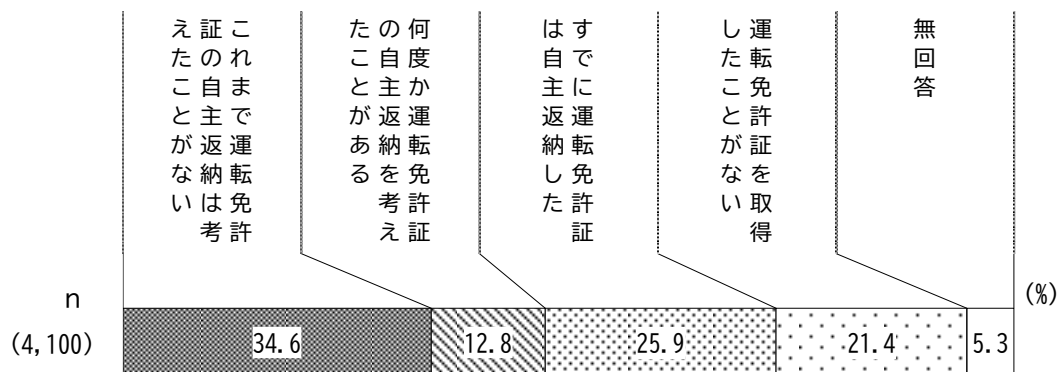
「徒歩」が69.1%で最も多く、次いで、「電車」(38.5%)、「自動車(自分で運転)」(35.9%)、「路線バス」(33.0%)となっている。



(11) 運転免許証の自主返納

Q10. 運転免許証の自主返納について、あなたの状況をお答えください (1つだけ○)

「これまで運転免許証の自主返納は考えたことがない」が34.6%で最も多く、次いで、「すでに運転免許証は自主返納した」(25.9%)、「運転免許証を取得したことがない」(21.4%)、「何度か運転免許証の自主返納を考えたことがある」(12.8%)となっている。



## (12) 運転免許証を返納していない理由

【Q10で「2 何らか運転免許証の自主返納を考えたことがある」の方のみ】

Q10-①. 運転免許証の自主返納を考えたことがあるものの返納していない理由をお聞かせください（自由記述）

460件の回答があり、内容別では「生活上の移動手段として必要」についての意見が167件と最も多く、次いで「将来返納予定（時期待ち）」が112件、「まだ運転できる・能力への自信」が39件、「身分証明書として保持」が39件、「公共交通・地域環境の問題」が26件となっている。

項目		件数
1	生活上の移動手段として必要	167
2	将来返納予定（時期待ち）	112
3	まだ運転できる・能力への自信	39
4	身分証明書として保持	28
5	公共交通・地域環境の問題	26
6	家族・介護・送迎など他者支援のため	21
7	仕事・社会活動・趣味のため	16
8	行動範囲・自由が制限される不安	15
9	手続き・制度面のハードル	10
10	心理的・感情的理由（アイデンティティ）	9
11	その他	51
回答総数		460

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回る。

## ■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

## ①生活の移動手段として

生活するのに車がないと不便だから。

車がないと買物や病院へ行くのが大変な為。

## ②将来返納予定（時期待ち）

病院に通う回数が増えてきて、少しずつ返納を延ばしてきたが、年齢を考えて来年返納を決めようとしています。

運転に不安を感じるようであれば返納しなければと考えている。

③まだ運転できる・能力への自信

まだまだ自動車の運転が必要であり、まだ大丈夫と思っている。

もう少しの間、運転できると思うから。

④身分証明書として保持

身分証明書に使用できるから。

車の運転はしていないが、証明書等を入手する時に使用したいため。

⑤公共交通・地域環境の問題

バスが1時間に1本なので不便。

交通手段がない(通院、買物が出来ない)。

⑥家族・介護・送迎など他者支援のため

年寄りの世話などがあり、車を使わないと負担が多い。

配偶者に不具合がある時に、車を運転して病院などに連れて行くため。

⑦仕事・社会活動・趣味のため

趣味やボランティア活動の時に、自宅より遠いので車がないと活動しにくい。バスも本数が少ないので。

仕事の通勤で運転しているから。

⑧行動範囲・自由が制限される不安

行動が制限され、外出機会が少なくなると思う。

返納すると行動範囲が狭くなり不便を感じる。

⑨手続き・制度面のハードル

最近移住してきたので、返納等の手続き方法がわからない。

つい面倒と感じて返納できない。

⑩心理的・感情的理由

まだ、車に乗っていたい気持ち大きい。

マイカーを手放すこと、免許を返納することが自身の精神的なステータスの放棄に繋がると感じて、辛さがあったから。これからの1~2年で、車を運転することに代わるステータスを見つけて、このことに決着をつけたい。

⑪その他

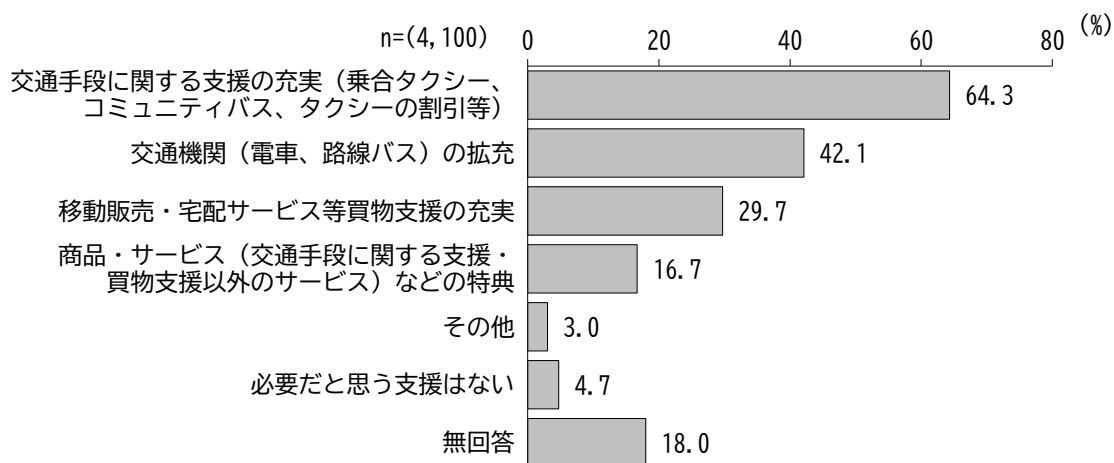
子供から、そろそろ返納したらと言われていた。

ニュース等で高齢者の事故を見ると考えてしまう。

(13) 運転免許証返納後に必要と思う支援

Q11. 運転免許証の返納後に必要だと思う支援は何ですか (いくつでも○)

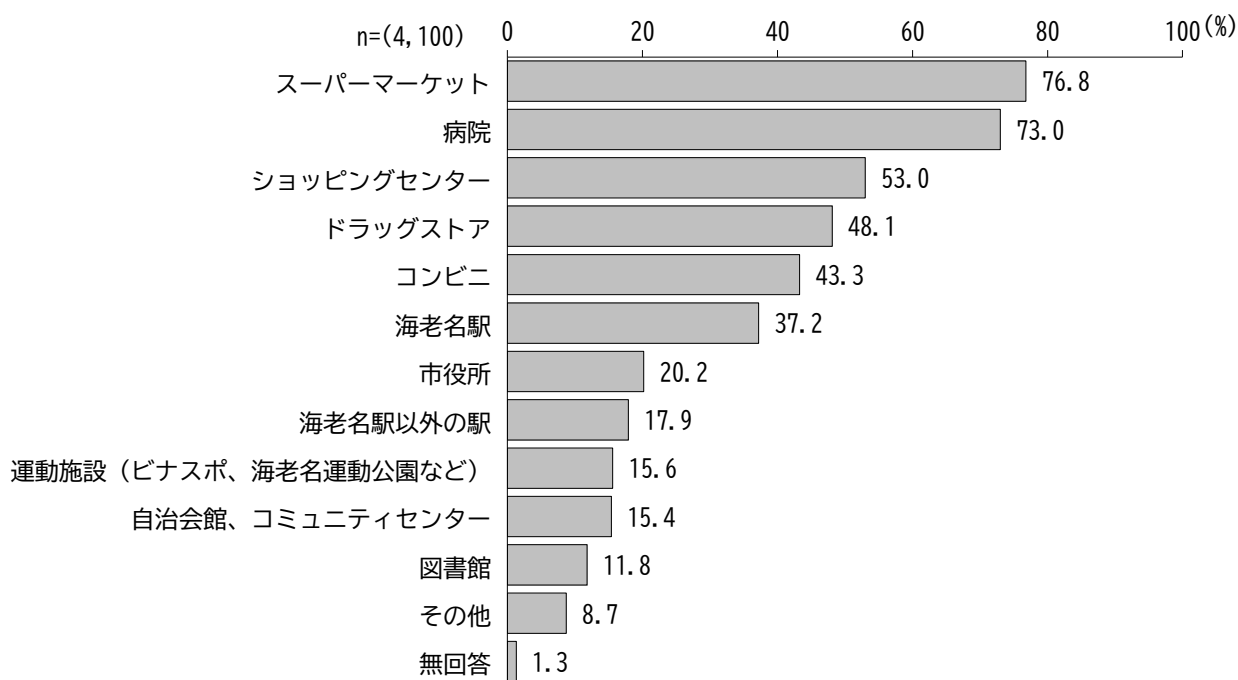
「交通手段に関する支援の充実 (乗合タクシー、コミュニティバス、タクシーの割引等)」が64.3%で最も多く、次いで、「交通機関 (電車、路線バス) の拡充」(42.1%)、「移動販売・宅配サービス等買物支援の充実」(29.7%)、「商品・サービス (交通手段に関する支援・買物支援以外のサービス) などの特典」(16.7%)となっている。



(14) 市内の主な外出先

Q12. 市内の主な外出先は、どこですか (いくつでも○)

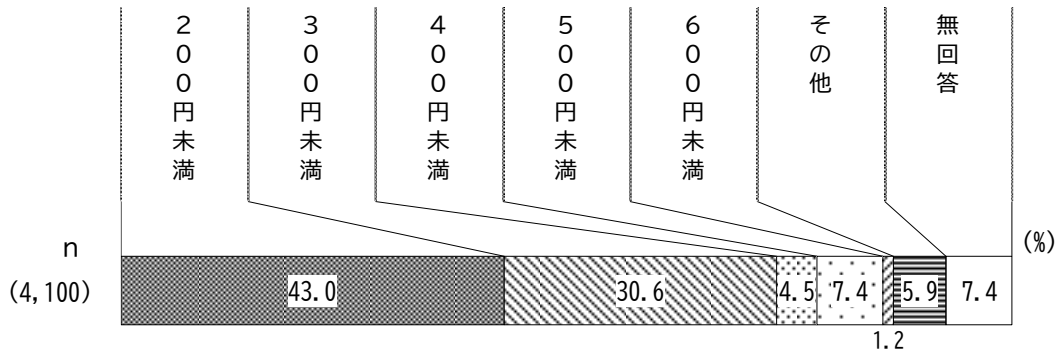
「スーパーマーケット」が76.8%で最も多く、次いで、「病院」(73.0%)、「ショッピングセンター」(53.0%)、「ドラッグストア」(48.1%)となっている。



(15) 市内でバスなどを利用して外出する場合の許容片道料金

Q13. 市内でバスなどを利用して外出する場合、片道いくらまでなら利用しますか (1つだけ○)

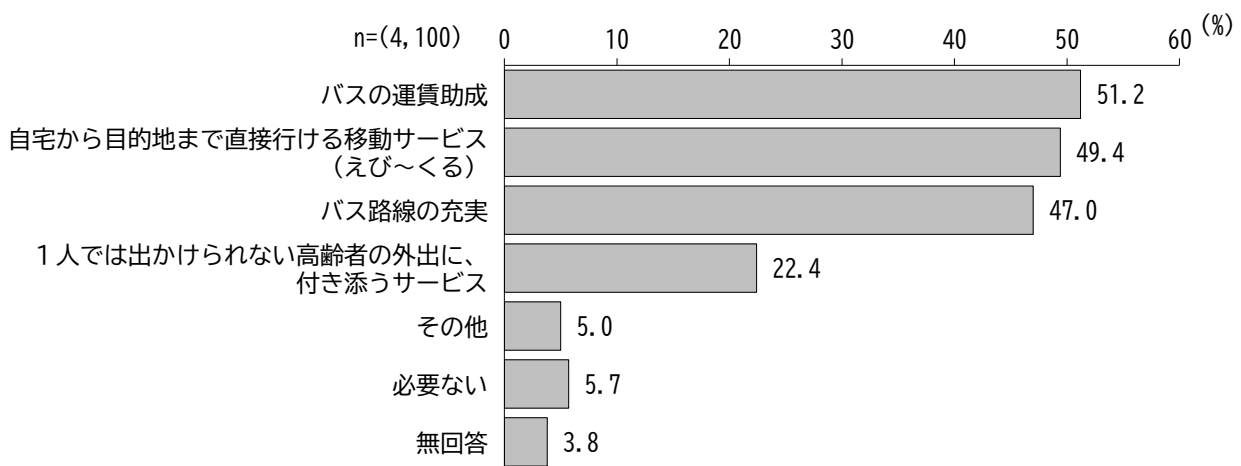
「200円未満」が43.0%で最も多く、次いで、「300円未満」(30.6%)、「500円未満」(7.4%)、「400円未満」(4.5%)となっている。



(16) 市内で外出するために必要と思うサービス

Q14. 市内で外出するために、必要だと思うサービスは何ですか (いくつでも○)

「バスの運賃助成」が51.2%で最も多く、次いで、「自宅から目的地まで直接行ける移動サービス(えび〜くる)」(49.4%)、「バス路線の充実」(47.0%)、「1人では出かけられない高齢者の外出に、付き添うサービス」(22.4%)となっている。



### 3. 食べること

#### (1) BMI (身長・体重)

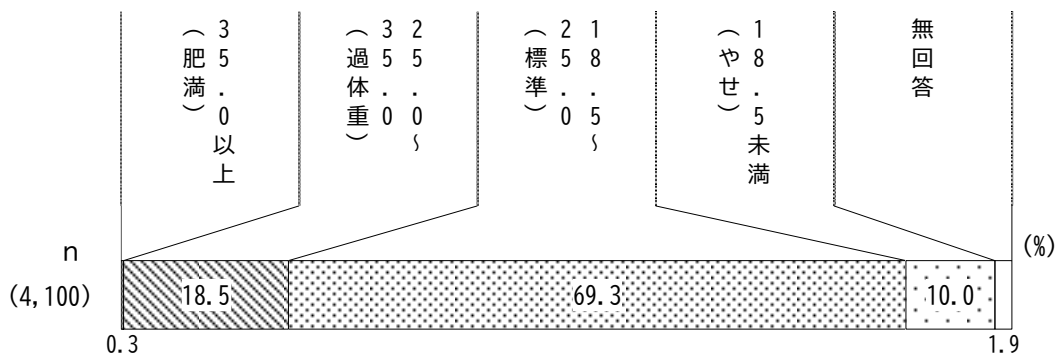
##### Q1. 身長・体重 (数字をご記入ください)

※BMI (Body Mass Index の略) : 体重 (Kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m)) で算出される肥満指数とされています。

18.5 未満が「やせ」、18.5～25.0 未満が「普通」、25.0 以上が「肥満」の目安になります。

BMI については「18.5～25.0 (標準)」が 69.3% で最も多く、次いで、「25.0～35.0 (過体重)」(18.5%)、「18.5 未満 (やせ)」(10.0%)、「35.0 以上 (肥満)」(0.3%) となっている。

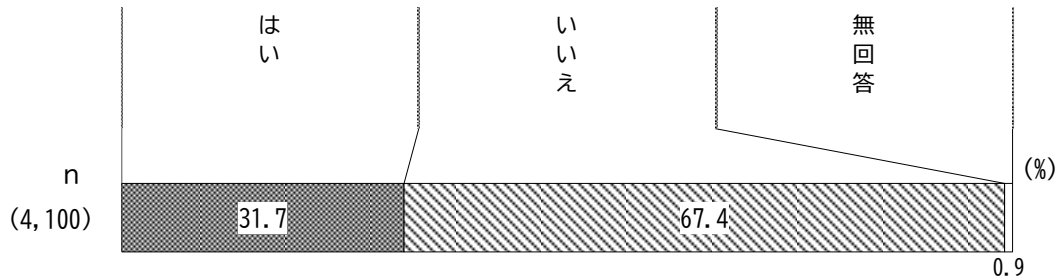
BMI の平均値は 22.5 であった。



(2) 固いものの食べにくさ

Q2. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (1つだけ○)

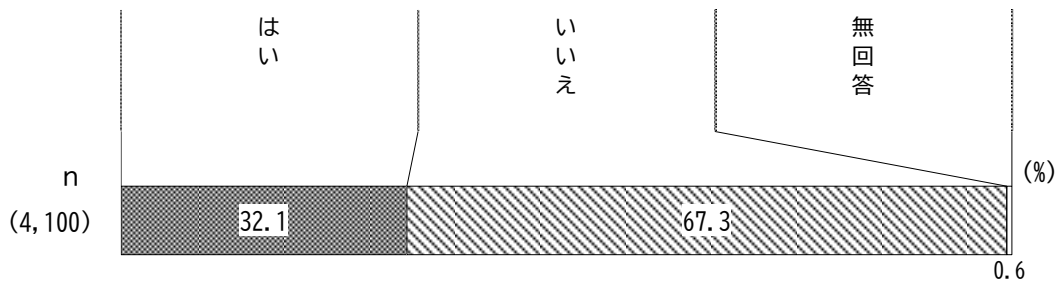
「はい」が31.7%、「いいえ」は67.4%となっている。



(3) むせる経験

Q3. お茶や汁物等でむせることがありますか (1つだけ○)

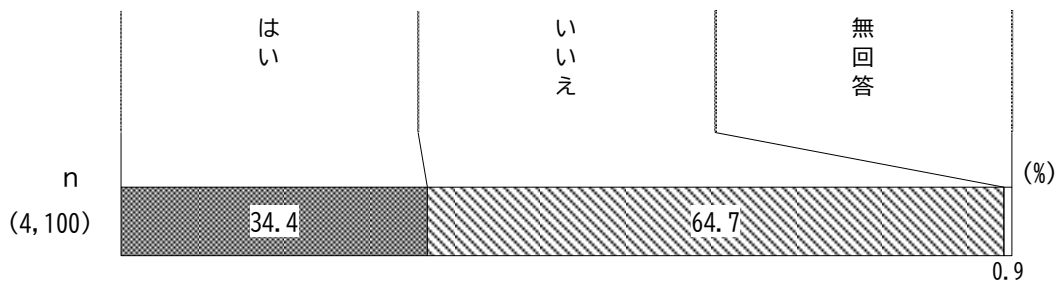
「はい」が32.1%、「いいえ」は67.3%となっている。



(4) 口の渇き

Q4. 口の渇きが気になりますか (1つだけ○)

「はい」が34.4%、「いいえ」は64.7%となっている。



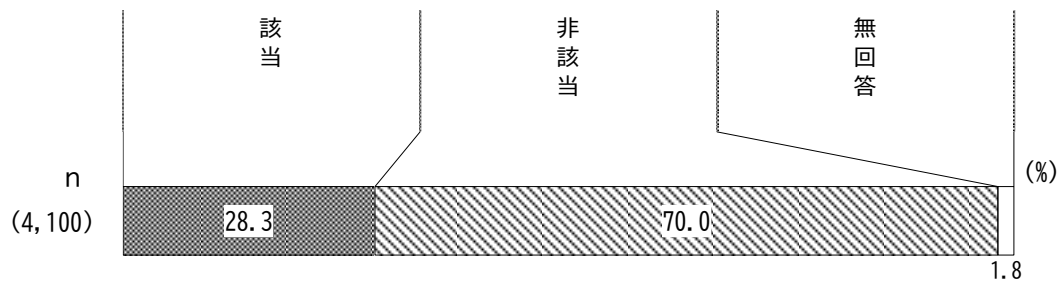
<口腔機能低下リスク>

下記の3項目中、2項目以上で「はい」に該当する場合、『口腔機能の低下に該当する高齢者』（口腔機能低下リスクあり）としています。

- ・半年前に比べて固いものが食べにくくなった（Q2）
- ・お茶や汁物等でむせることがある（Q3）
- ・口の渇きが気になる（Q4）

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

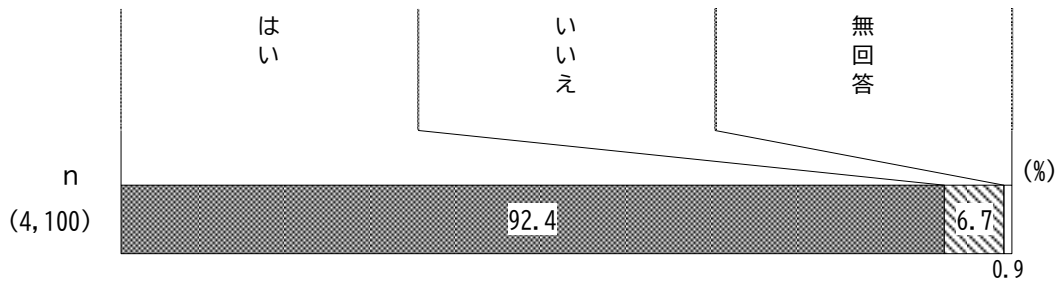
口腔機能低下リスクに「該当」が28.3%、「非該当」は70.0%となっている。



（5）毎日の歯磨き

Q5. 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（1つだけ○）

「はい」が92.4%、「いいえ」は6.7%となっている。

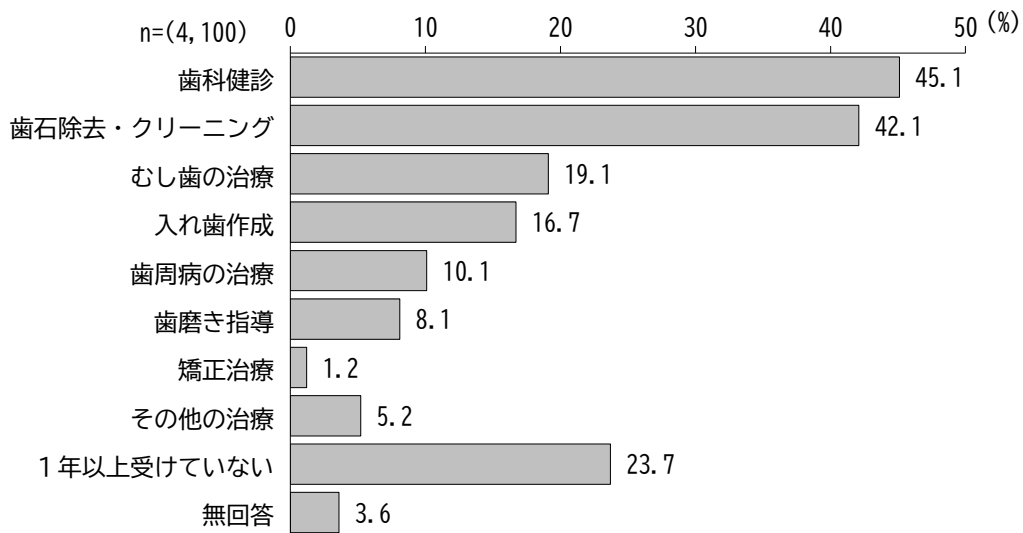


（6）歯科の受診状況

Q6. 過去1年以内に歯科医院、職場、市の健診等で受けたことのある内容は何ですか（いくつでも○）

「歯科健診」が45.1%で最も多く、次いで、「歯石除去・クリーニング」(42.1%)、「むし歯の治療」(19.1%)、「入れ歯作成」(16.7%)となっている。

一方、「1年以上受けていない」は23.7%であった。

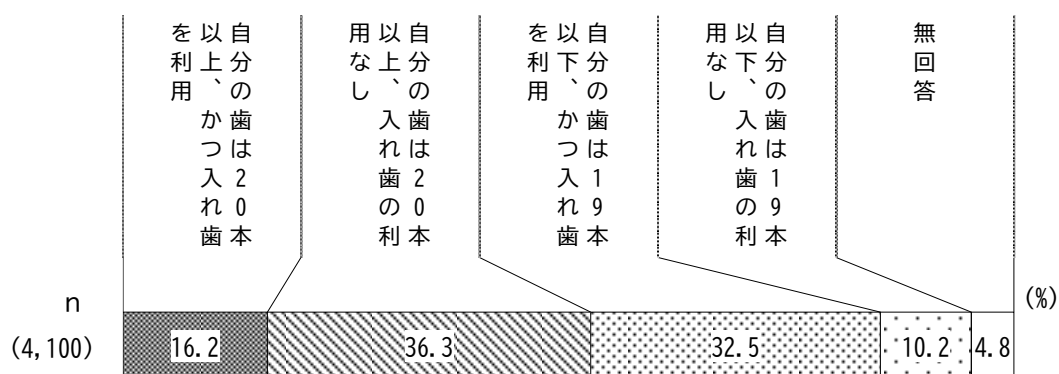


(7) 歯の数と入れ歯の利用状況

Q7. 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です) (1つだけ○)

「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が36.3%で最も多く、次いで、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(32.5%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(16.2%)、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」(10.2%)となっている。

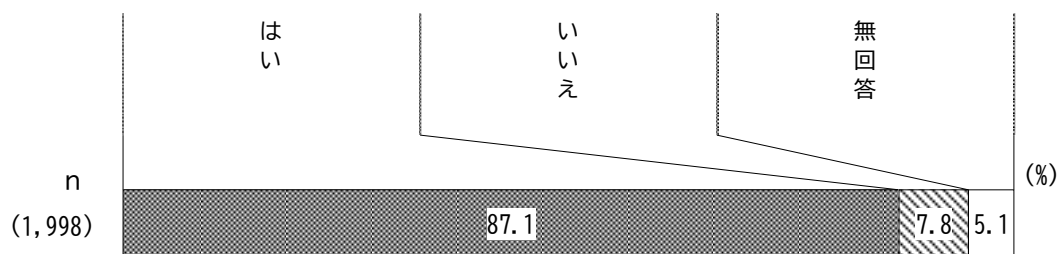


(8) 入れ歯の手入れ

【Q7で「1 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】

Q7-①. 毎日入れ歯の手入れをしていますか (1つだけ○)

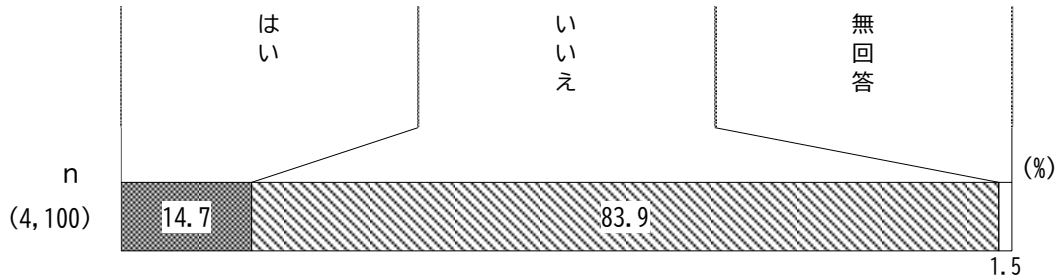
「はい」が87.1%、「いいえ」は7.8%となっている。



(9) 体重減少の有無

Q8. 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか (1つだけ○)

「はい」が14.7%、「いいえ」は83.9%となっている。



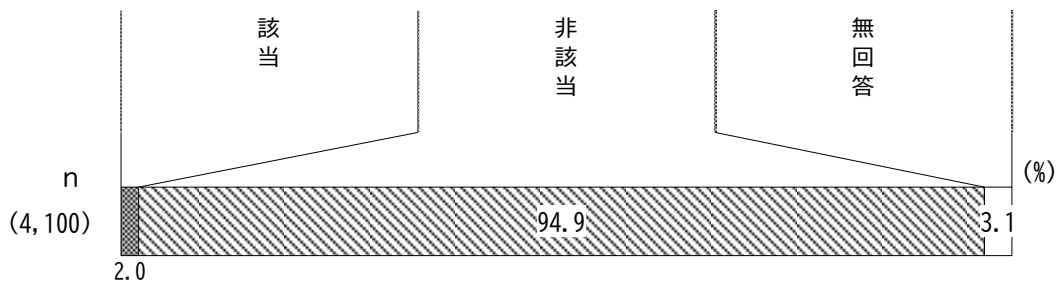
<低栄養のリスク>

下記の2項目に該当する場合、『低栄養状態に該当する高齢者』(低栄養リスクあり)としています。

- ・身長・体重から算出されるBMIが18.5以下 (Q1)
- ・6か月間で2～3kg以上の体重減少 (Q8)

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き (令和7年8月)

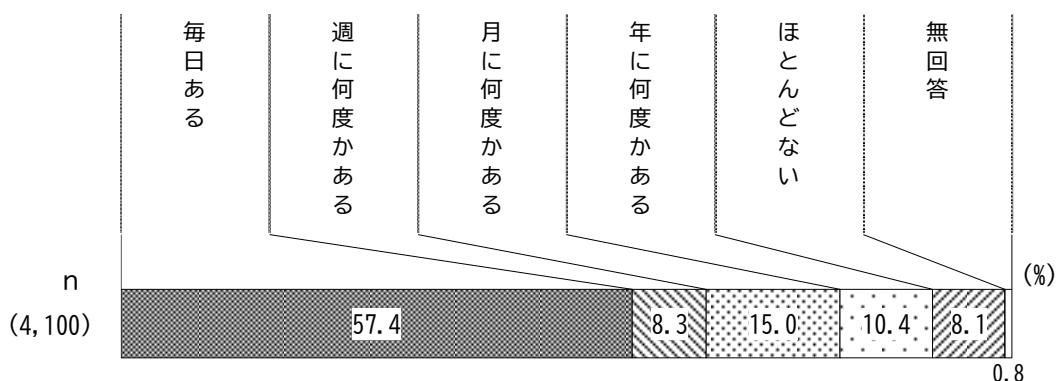
低栄養のリスクに「該当」が2.0%、「非該当」は94.9%となっている。



(10) 共食の頻度

Q9. どなたかと食事をとにもする機会がありますか (1つだけ○)

「毎日ある」が 57.4%で最も多く、次いで、「月に何度かある」(15.0%)、「年に何度かある」(10.4%)、「週に何度かある」(8.3%)となっている。

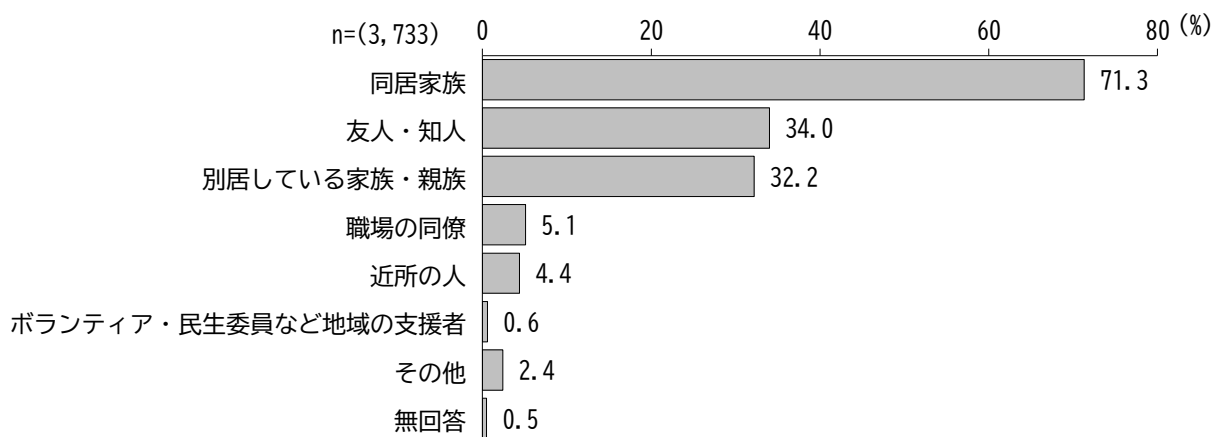


(11) 共食相手

【Q9で「1 毎日ある」「2 週に何度かある」「3 月に何度かある」「4 年に何度かある」の方のみ】

Q9-①. 誰と一緒に食事をしますか (いくつでも○)

「同居家族」が 71.3%で最も多く、次いで、「友人・知人」(34.0%)、「別居している家族・親族」(32.2%)となっている。

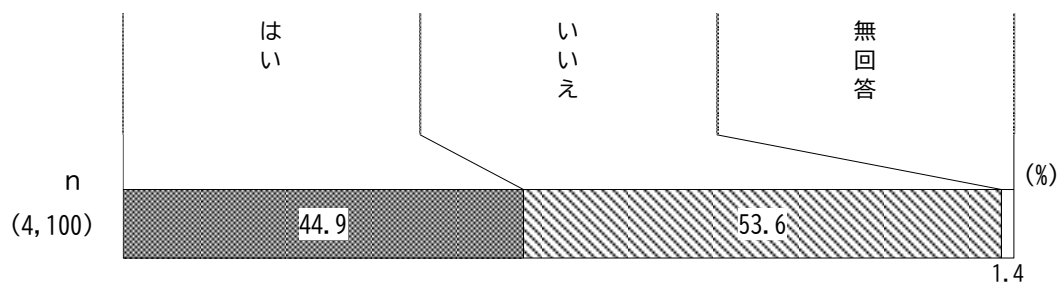


## 4. 毎日の生活

### （1）物忘れの状況

Q1. 物忘れが多いと感じますか（1つだけ○）

「はい」が44.9%、「いいえ」は53.6%となっている。



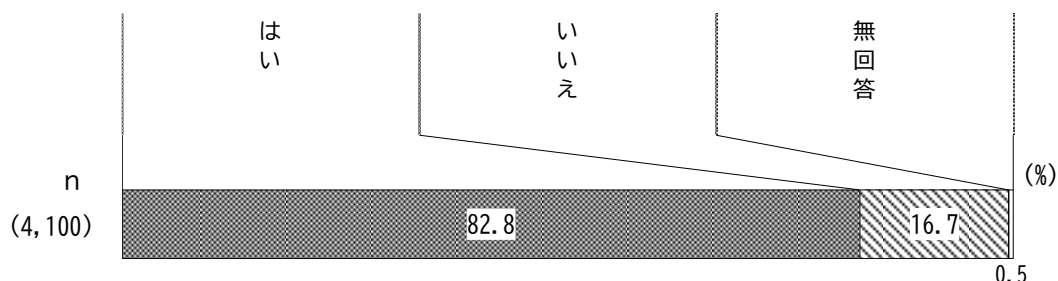
物忘れが多いと感じる（「はい」）と回答した場合、『認知機能の低下がみられる高齢者』（認知機能低下リスクあり）としています。

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

(2) 電話の使用

Q2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか (1つだけ○)

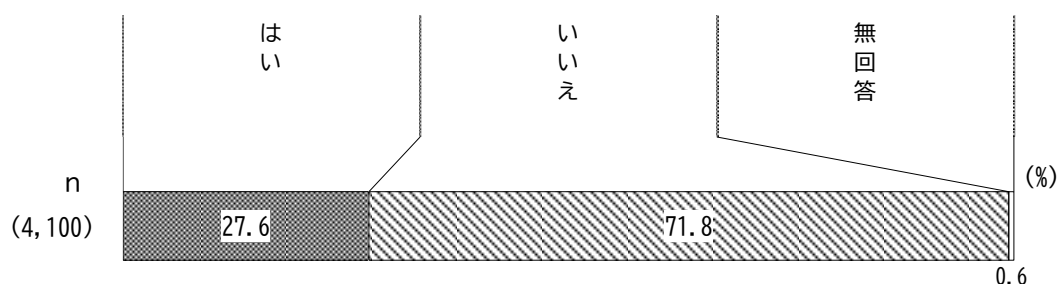
「はい」が82.8%、「いいえ」は16.7%となっている。



(3) 日付の忘却

Q3. 今日が何月何日かわからないときがありますか (1つだけ○)

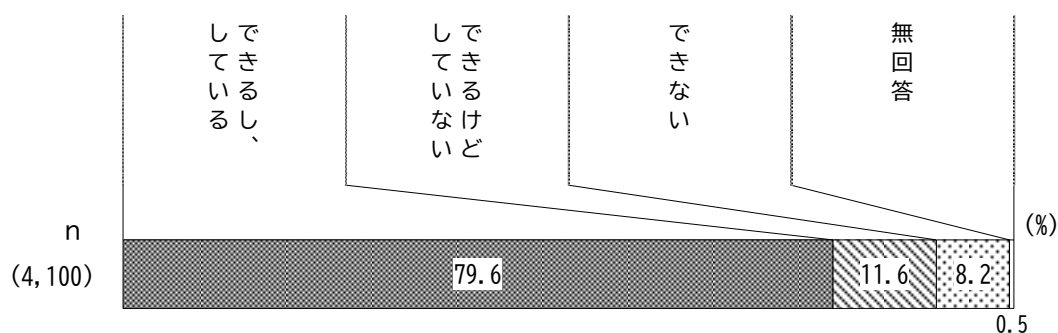
「はい」が27.6%、「いいえ」は71.8%となっている。



(4) 1人での外出

Q4. バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可) (1つだけ○)

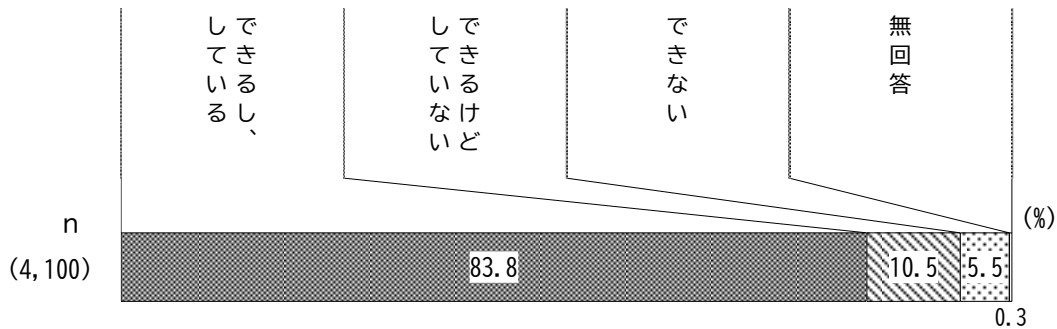
「できるし、している」が79.6%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」(11.6%)、「できない」(8.2%)となっている。



(5) 食品・日用品の買い物

Q5. 自分で食品・日用品の買い物をしていますか (1つだけ○)

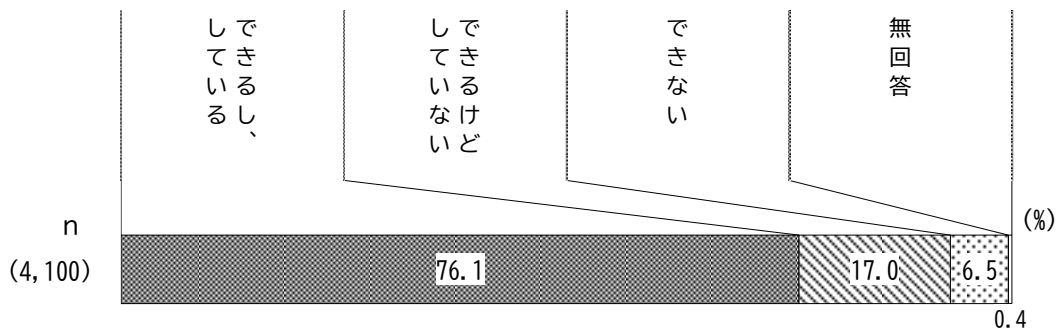
「できるし、している」が 83.8%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」(10.5%)、「できない」(5.5%)となっている。



(6) 食事の用意

Q6. 自分で食事の用意をしていますか (1つだけ○)

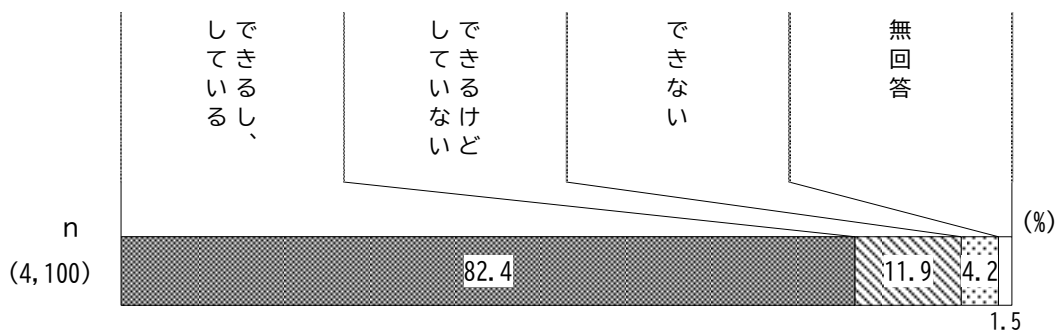
「できるし、している」が 76.1%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」(17.0%)、「できない」(6.5%)となっている。



(7) 請求書の支払い

Q7. 自分で請求書の支払いをしていますか (1つだけ○)

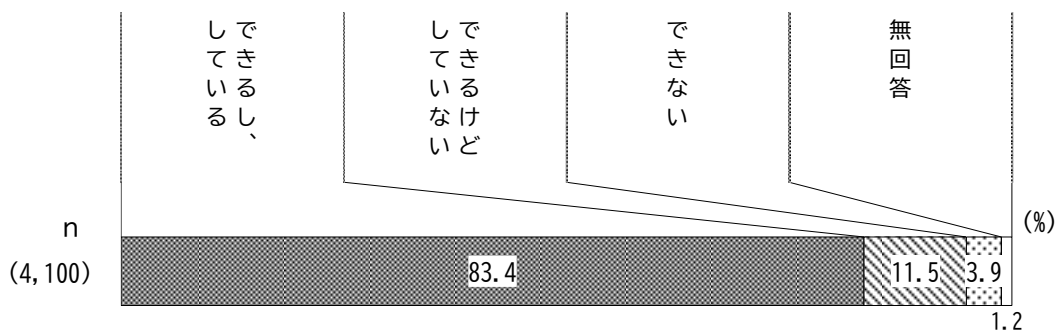
「できるし、している」が 82.4%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」(11.9%)、「できない」(4.2%)となっている。



(8) 預貯金の出し入れ

Q8. 自分で預貯金の出し入れをしていますか (1つだけ○)

「できるし、している」が83.4%で最も多く、次いで、「できるけどしていない」(11.5%)、「できない」(3.9%)となっている。



<IADL※リスク>

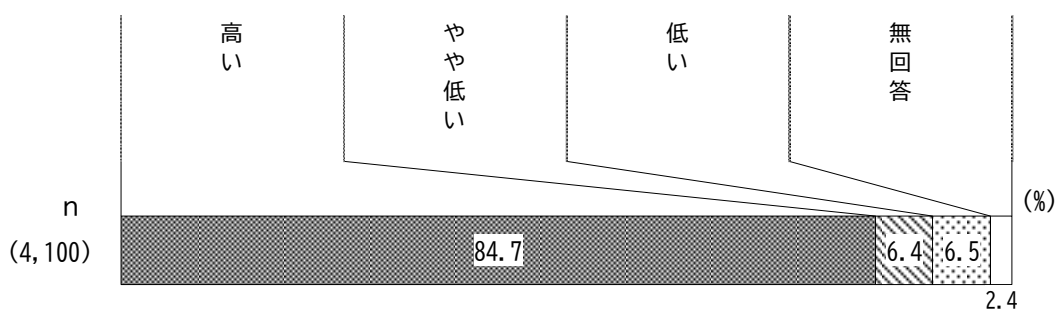
※「IADL」とは、手段的日常生活動作のことで、「掃除・料理・洗濯・買い物などの家事や交通機関の利用、電話対応などのコミュニケーション、スケジュール調整、服薬管理、金銭管理、趣味」などの複雑な動作を指す。

下記の5項目の回答について、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価した。4点以下の方を、本調査において『IADL機能低下リスクがある高齢者』としている。

- ・バスや電車を使って1人で外出 (Q4)
- ・自分で食品・日用品の買い物 (Q5)
- ・自分で食事の用意 (Q6)
- ・自分で請求書の支払い (Q7)
- ・自分で預貯金の出し入れ (Q8)

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き (令和7年8月)

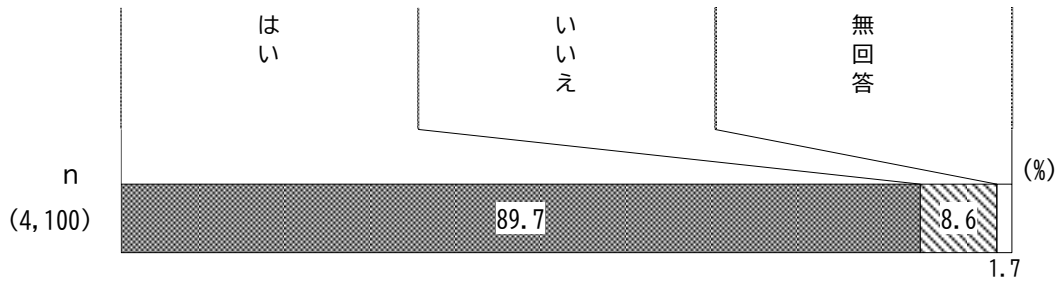
IADLリスク該当者は、「低い」(6.5%)、「やや低い」(6.4%)を合わせた12.9%となっている。



(9) 書類の記入

Q9. 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか(1つだけ○)

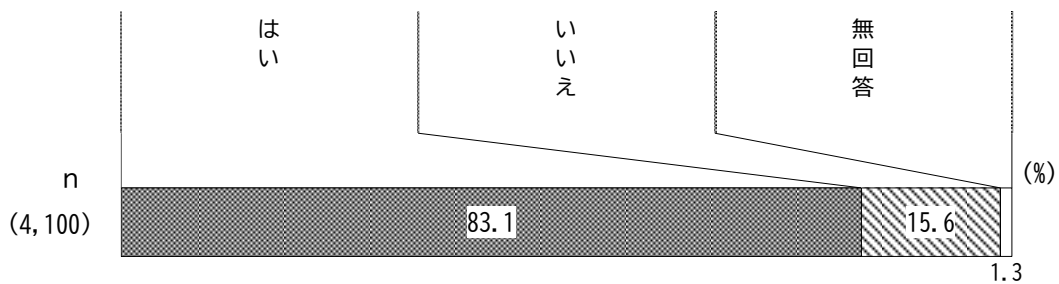
「はい」が89.7%、「いいえ」が8.6%となっている。



(10) 新聞閲読

Q10. 新聞(紙・Webも含む)を読んでいますか(1つだけ○)

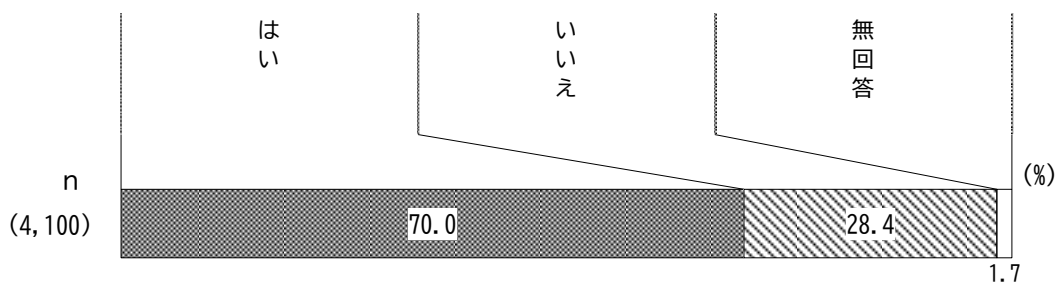
「はい」が83.1%、「いいえ」が15.6%となっている。



(11) 本や雑誌の閲読

Q11. 本や雑誌を読んでいますか(1つだけ○)

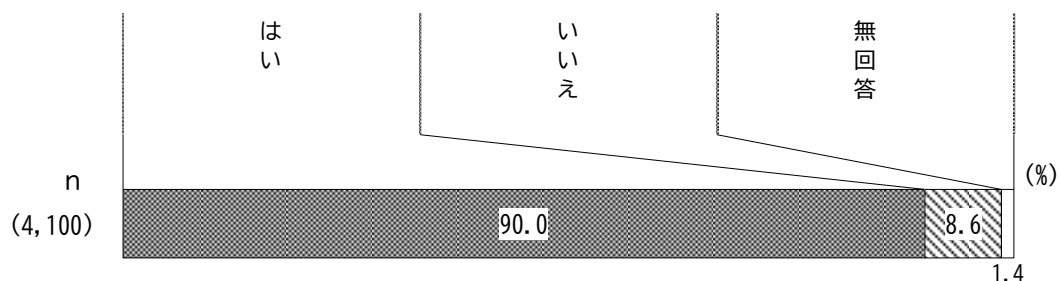
「はい」が70.0%、「いいえ」が28.4%となっている。



(12) 健康記事、番組への関心

Q12. 健康についての記事や番組に関心がありますか (1つだけ○)

「はい」が90.0%、「いいえ」は8.6%となっている。



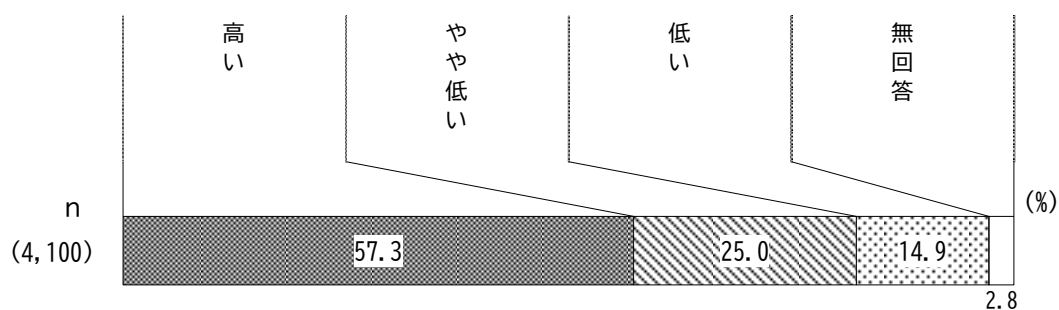
<知的能動性の低下リスク>

下記の4項目の回答について、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価した。3点以下の方を、本調査において『知的能動性の低下リスクがある高齢者』としている。

- ・書類の記入 (Q9)
- ・新聞閲読 (Q10)
- ・本や雑誌の閲読 (Q11)
- ・健康記事、番組への関心 (Q12)

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き (令和7年8月)

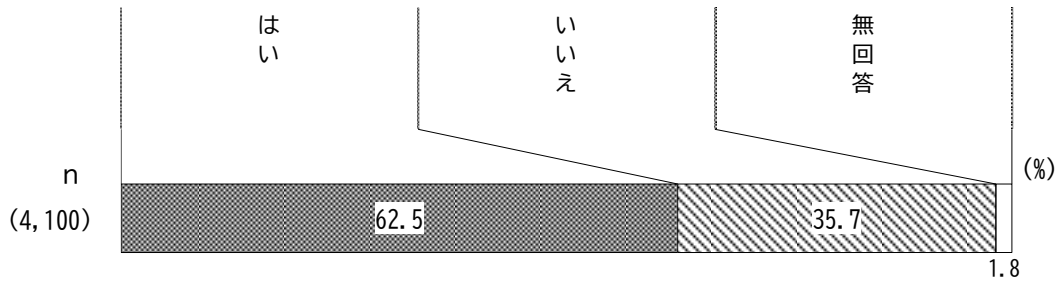
知的能動性の低下リスク該当者は、「やや低い」(25.0%)、「低い」(14.9%)を合わせた39.9%となっている。



(13) 若い人への話しかけ

Q13. 若い人に自分から話しかけることがありますか (1つだけ○)

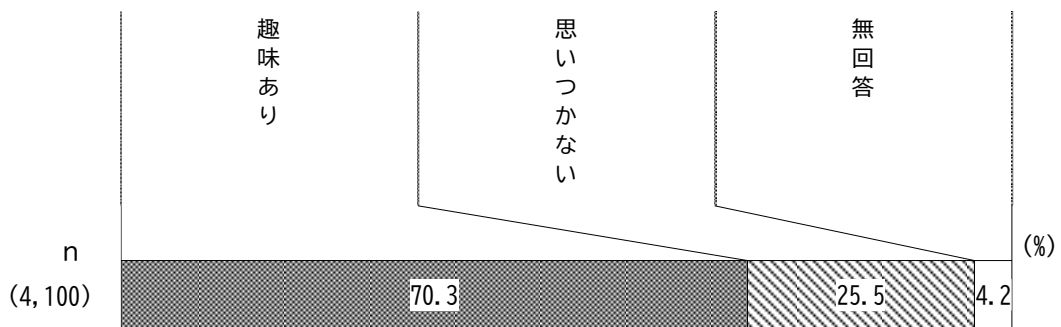
「はい」が62.5%、「いいえ」は35.7%となっている。



(14) 趣味の有無・内容

Q14. 趣味はありますか (1つだけ○)

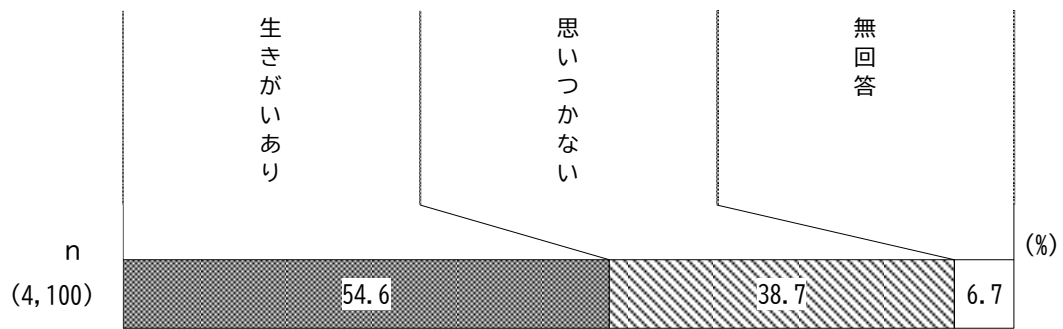
「趣味あり」が70.3%、「思いつかない」は25.5%となっている。



(15) 生きがいの有無・内容

Q15. 生きがいはありますか (1つだけ○)

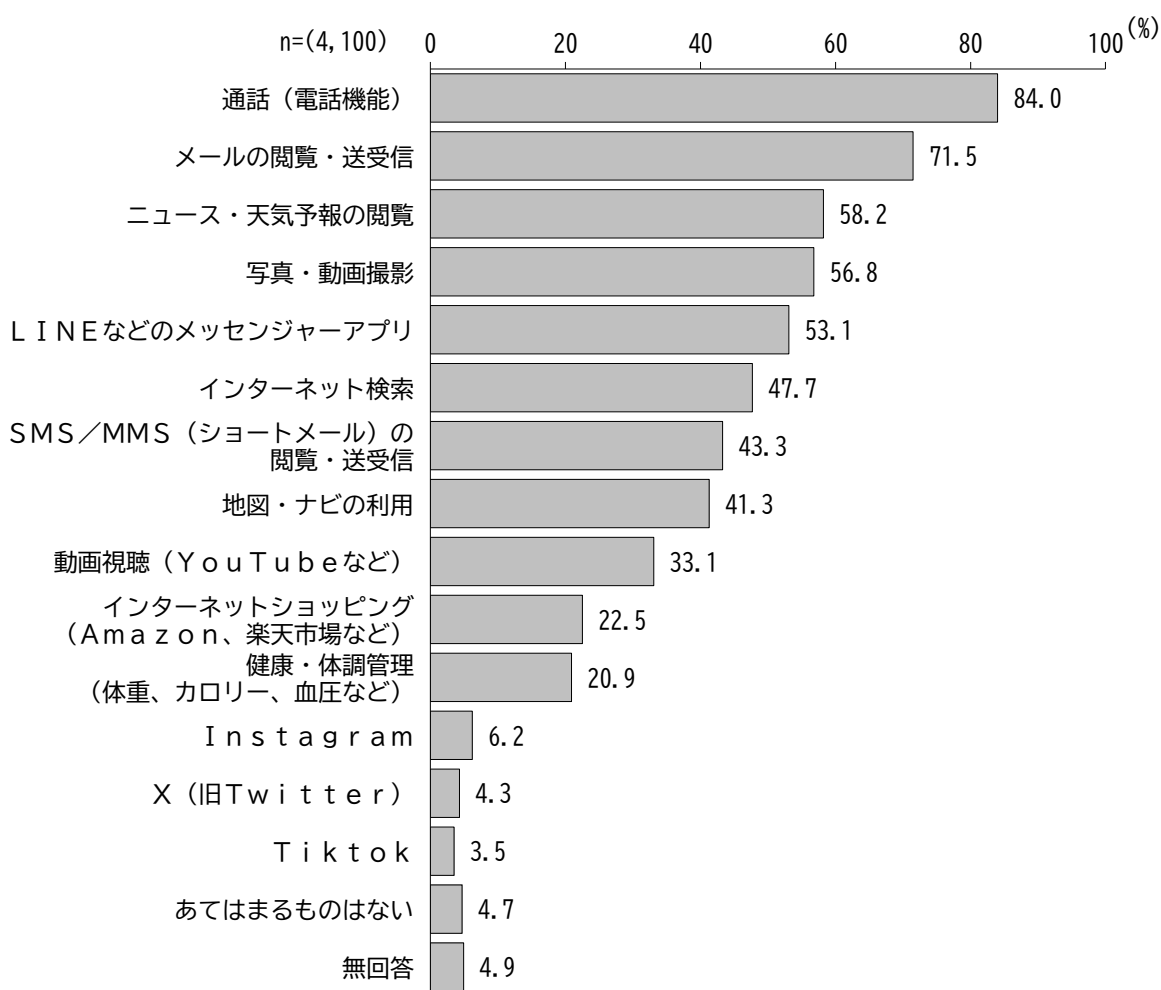
「生きがいあり」が54.6%、「思いつかない」は38.7%となっている。



(16) 携帯電話やスマートフォン、パソコンの利用用途

Q16. 携帯電話やスマートフォン、パソコンで、以下の中で利用している機能に○をつけてください (いくつでも○)

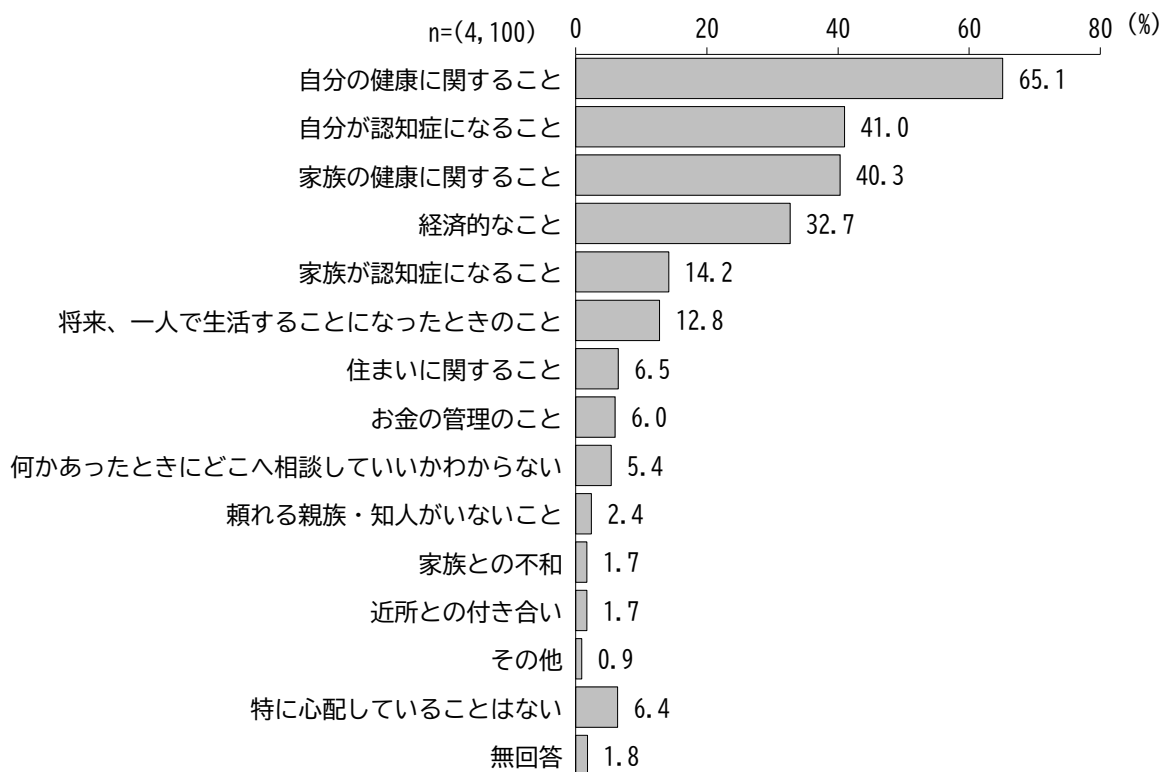
「通話 (電話機能)」が 84.0%で最も多く、次いで、「メールの閲覧・送受信」(71.5%)、「ニュース・天気予報の閲覧」(58.2%)、「写真・動画撮影」(56.8%)、「LINEなどのメッセージングアプリ」(53.1%)となっている。



(17) 今後の生活で心配なこと

Q17. 今後の生活で心配なことはありますか (3つまで○)

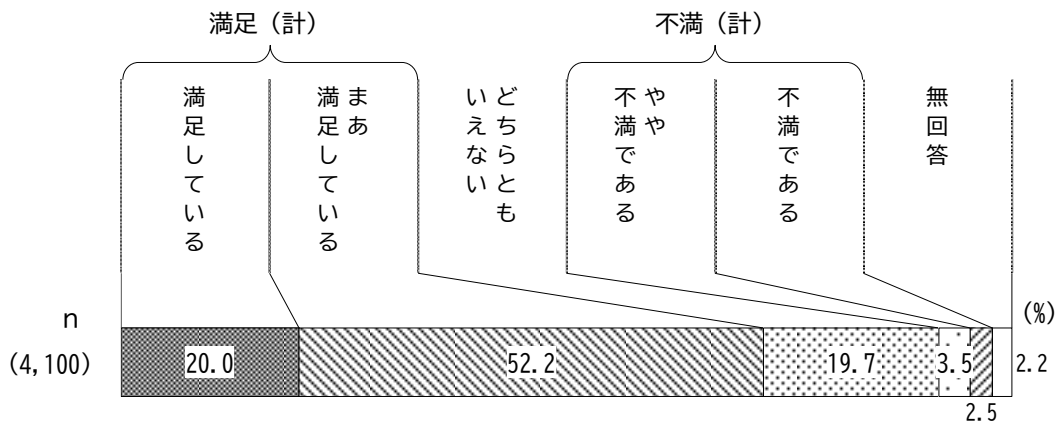
「自分の健康に関すること」が 65.1%で最も多く、次いで、「自分が認知症になること」(41.0%)、「家族の健康に関すること」(40.3%)、「経済的なこと」(32.7%)となっている。



(18) 現在の生活の満足度

Q18. 現在の生活に満足していますか (1つだけ○)

「まあ満足している」が52.2%で最も多く、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足(計)』は72.2%となっている。一方、「どちらともいえない」(19.7%)、「やや不満である」を合わせた「不満である」計の『不満(計)』は6.0%であった。



(19) 現在の生活に不満である理由

【Q18で「4 やや不満である」「5 不満である」の方のみ】  
Q18-①. その理由は何ですか (自由記述)

230件の回答があり、内容別では「経済的不安・生活費負担」についての意見が96件と最も多く、次いで「自身の健康・身体機能の低下」が37件、「家族の健康問題・介護負担」が33件、「家族関係・人間関係の問題」が23件、「孤立・孤独・精神的負担」が17件となっている。

項目	件数
1 経済的不安・生活費負担	96
2 自身の健康・身体機能の低下	37
3 家族の健康問題・介護負担	33
4 家族関係・人間関係の問題	23
5 孤立・孤独・精神的負担	17
6 生活利便性・地域環境 (交通・施設)	15
7 住環境・住宅問題	13
8 将来不安・漠然とした不安	10
9 時間・生活の余裕・活動制限	9
10 その他	9
回答総数	230

※複数の項目にまたがる意見もあるため、各項目の件数の合計は回答総数を上回る。

■主な意見の概要（抜粋、要約の場合あり）

①経済的不安・生活費負担

物価高騰に給与が追いついていないので、貯蓄ができず不安。体も老いていき、一人で生活していかななくてはいけない現実を受け入れられない。

家賃やインフラ費用、物価高等の負担増で趣味や外食に充てる費用が減ってきている。

②自身の健康・身体機能の低下

病気になり、思うように動けないことがある。

体の調子の良い時ばかりでないので不安になる時がある。

③家族の健康問題・介護負担

夫の介護がいつまで続くか不安。旅行にも行けない。

家族が認知症になり、自分のやりたい事がほとんどできない。

④家族関係・人間関係の問題

家族との不和。

⑤孤立・孤独・精神的負担

不満というより心配。心配事を相談する相手がいない。

頼れる知人や人がいない。

⑥生活利便性・地域環境（交通・施設）

駅までの距離がやや遠い（バスの本数が少ない・自転車は季節によっては辛い）。

病院とスーパーマーケットが遠く、交通の便が不便。

⑦住環境・住宅問題

家の老朽化、耐震に伴う建替時の住まい探しを迫られたら、年齢的に非常に心配。この問題に接してから不安ばかりです。

集合住宅での生活で、5階建ての建物の4階に居住しているため階段の昇降が辛い（エレベーターが無い場合）。

⑧将来不安・漠然とした不安

生活がつまらない。生きがいがない。

在宅での生活が続けられるか不安。

⑨時間・生活の余裕・活動制限

日々、ゆとりがない事（時間、お金）。

勤めている為自由時間が少ない。できれば余裕をもって生活したい。

⑩その他

地域包括センターの方が不親切なところ。

## 5. 地域での活動

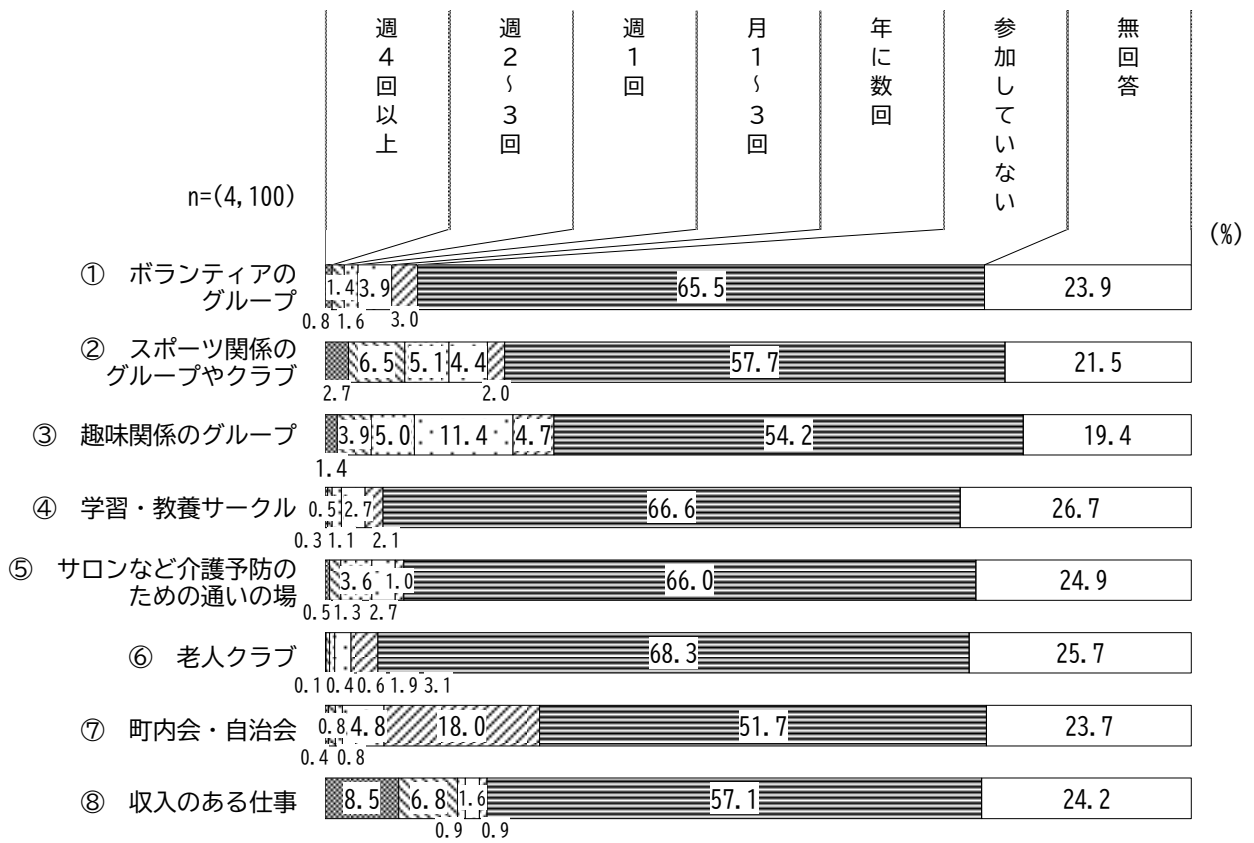
### (1) 地域活動への参加頻度

Q1. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか  
 ※①から⑧それぞれに回答してください(それぞれに1つだけ○)

どの会・グループも「参加していない」割合が5～6割台となっている。

「年に数回」以上の参加頻度の計が2割を超えているのは、「③趣味関係のグループ」(26.4%)が最も多く、次いで、「⑦町内会・自治会」(24.8%)、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(20.7%)であった。

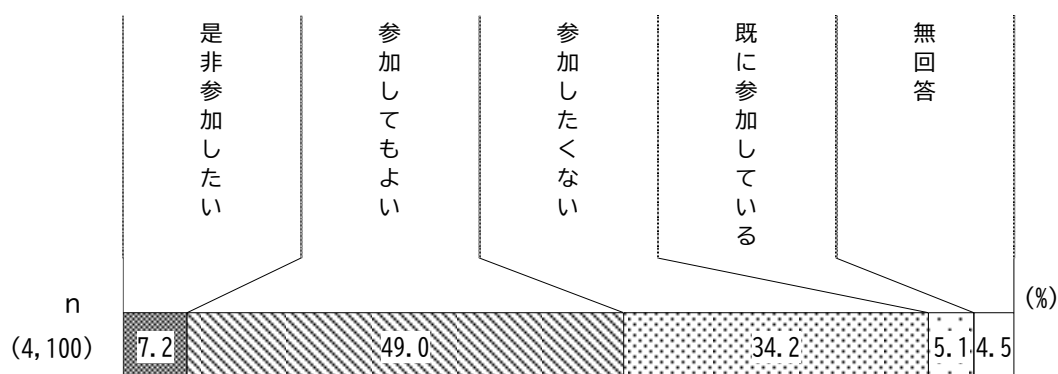
「③趣味関係のグループ」では「月1～3回」(11.4%)、「⑦町内会・自治会」は「年に数回」(18.0%)の頻度で参加している人が多い。



(2) 地域づくりの参加意向：参加者として

Q2. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (1つだけ○)

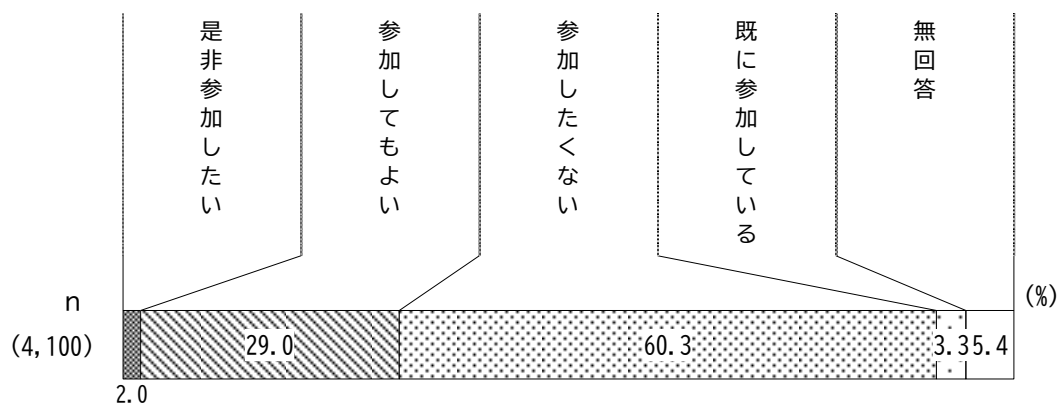
「参加してもよい」が49.0%で最も多く、次いで、「参加したくない」(34.2%)、「是非参加したい」(7.2%)、「既に参加している」(5.1%)となっている。



(3) 地域づくりの参加意向：企画・運営（お世話役）として

Q3. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか (1つだけ○)

「参加したくない」が60.3%で最も多く、次いで、「参加してもよい」(29.0%)、「既に参加している」(3.3%)、「是非参加したい」(2.0%)となっている。

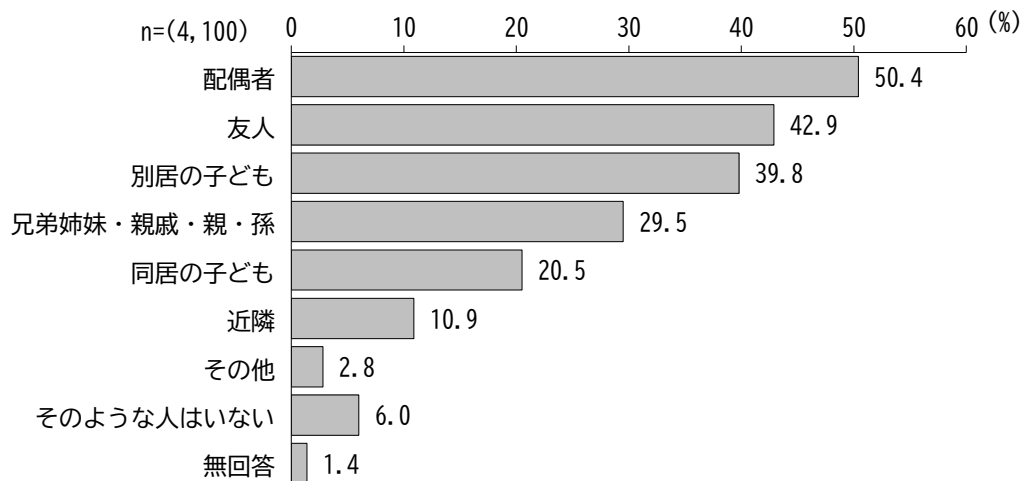


## 6. たすけあい

### (1) 心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人

Q1. あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも○)

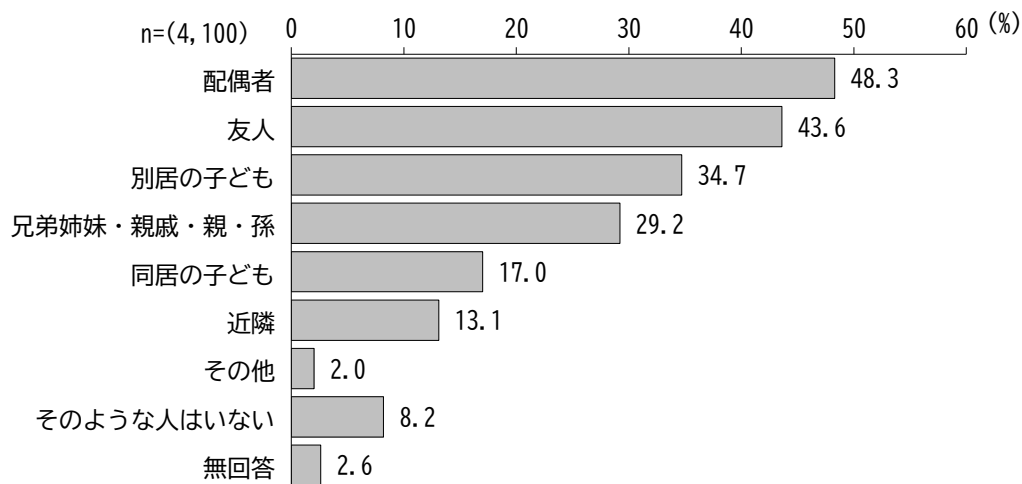
「配偶者」が50.4%で最も多く、次いで、「友人」(42.9%)、「別居の子ども」(39.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(29.5%)となっている。



### (2) 心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人

Q2. 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも○)

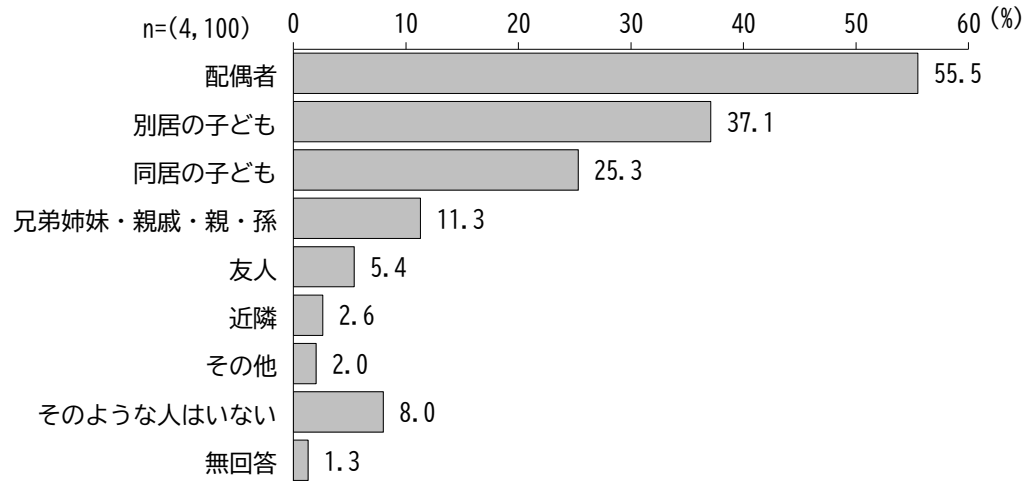
「配偶者」が48.3%で最も多く、次いで、「友人」(43.6%)、「別居の子ども」(34.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(29.2%)となっている。



(3) 看病や世話をしてくれる人

Q3. あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (いくつでも○)

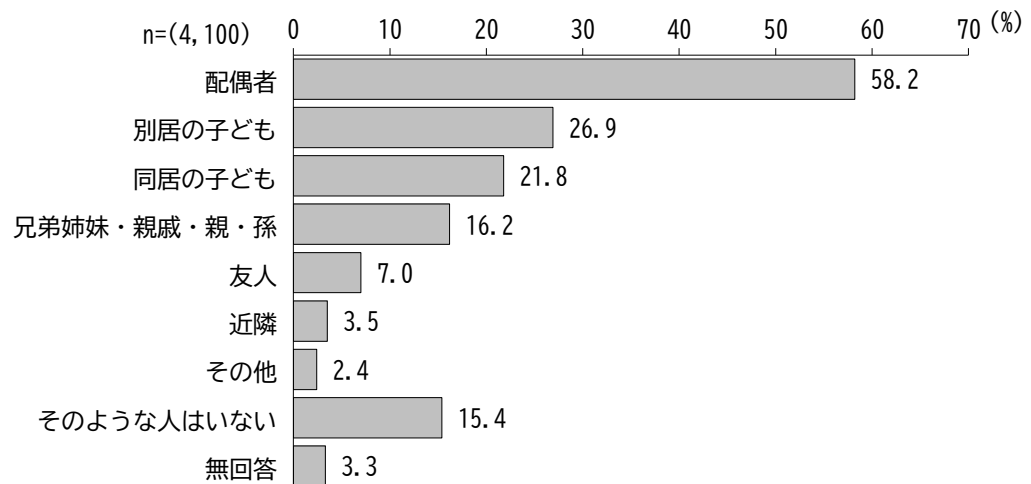
「配偶者」が 55.5%で最も多く、次いで、「別居の子ども」(37.1%)、「同居の子ども」(25.3%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(11.3%)となっている。



(4) 看病や世話をしてあげる人

Q4. 反対に、看病や世話をしてあげる人 (いくつでも○)

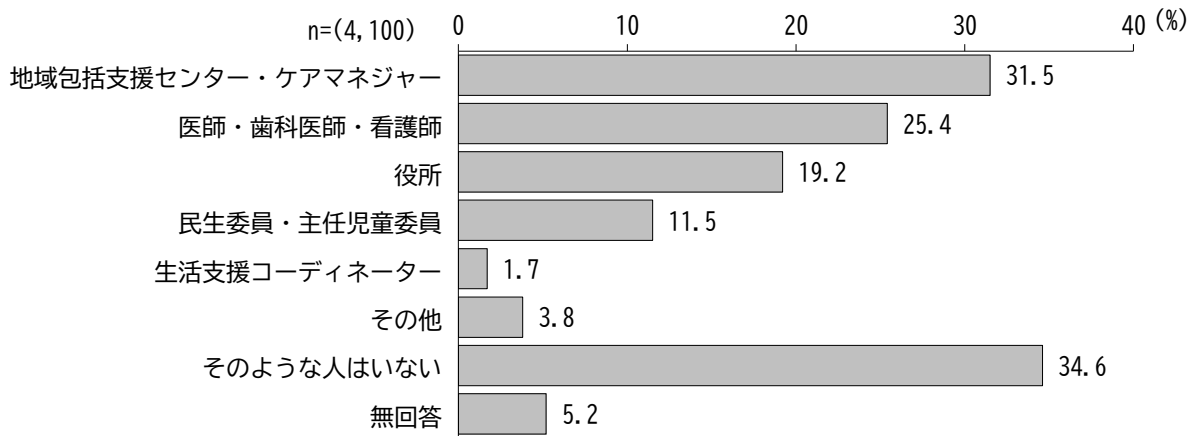
「配偶者」が 58.2%で最も多く、次いで、「別居の子ども」(26.9%)、「同居の子ども」(21.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(16.2%)となっている。



(5) 家族や友人・知人以外の相談相手

Q5. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください  
(いくつでも○)

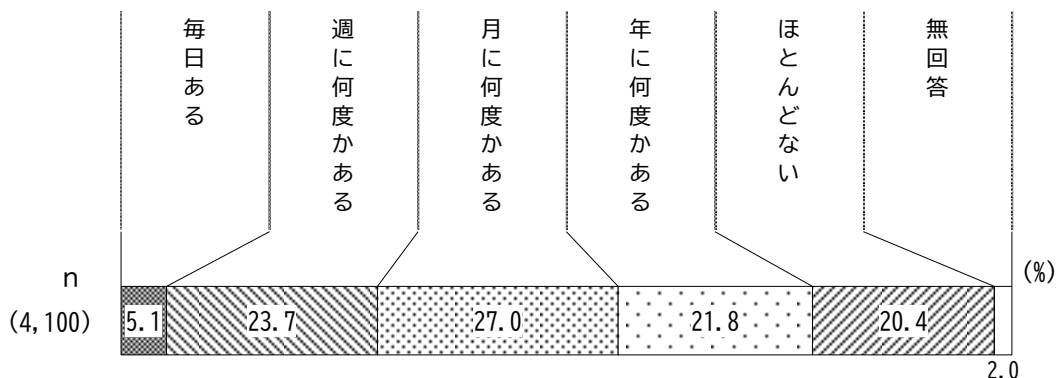
「地域包括支援センター・ケアマネジャー」が31.5%で最も多く、次いで、「医師・歯科医師・看護師」(25.4%)、「役所」(19.2%)、「民生委員・主任児童委員」(11.5%)となっている。一方、「そのような人はいない」は34.6%であった。



(6) 友人・知人と会う頻度

Q6. 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか (1つだけ○)

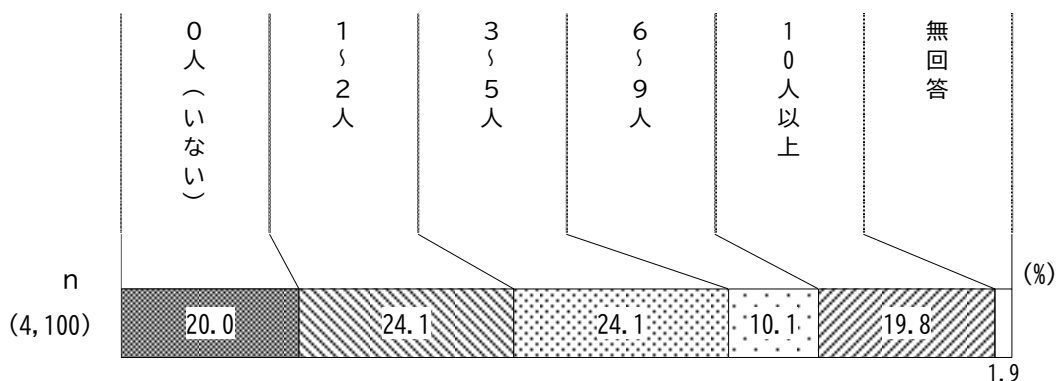
「月に何度かある」が27.0%で最も多く、次いで、「週に何度かある」(23.7%)、「年に何度かある」(21.8%)、「毎日ある」(5.1%)となっている。一方、「ほとんどない」は20.4%であった。



(7) 1か月に会った友人・知人の数

Q7. この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか  
 同じ人には何度会っても1人と数えることとします (1つだけ○)

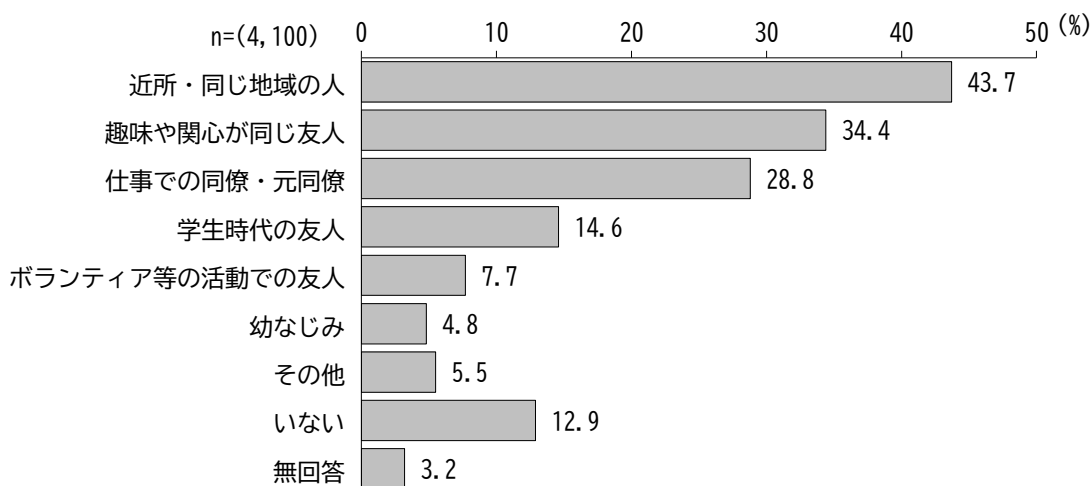
「1～2人」「3～5人」いずれも 24.1%で最も多く、次いで、「0人 (いない)」(20.0%)、「10人以上」(19.8%)、「6～9人」(10.1%) となっている。



(8) よく会う友人・知人との関係

Q8. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも○)

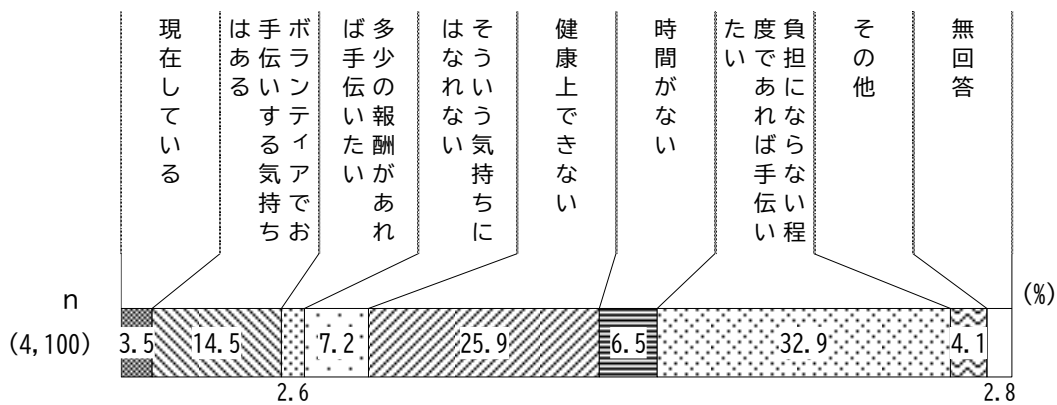
「近所・同じ地域の人」が 43.7%で最も多く、次いで、「趣味や関心が同じ友人」(34.4%)、「仕事での同僚・元同僚」(28.8%)、「学生時代の友人」(14.6%) となっている。



(9) 地域で困っている高齢者がいた時のお手伝い

Q9. 地域で困っている高齢者がいた時に、お手伝いすることは可能ですか (現在あるいは将来的にいずれかでも結構です) (1つだけ○)

「負担にならない程度であれば手伝いたい」が32.9%で最も多く、次いで、「健康上できない」(25.9%)、「ボランティアでお手伝いする気持ちはある」(14.5%)、「そういう気持ちにはなれない」(7.2%)となっている。

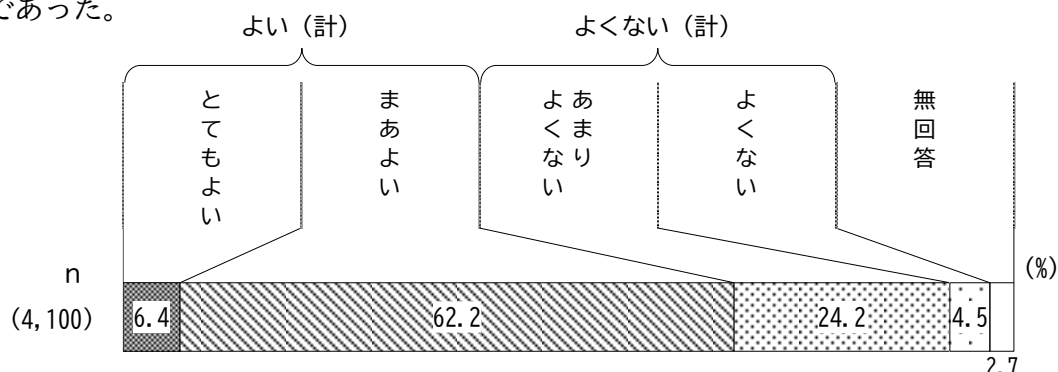


## 7. 健康

### (1) 健康状態

Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか (1つだけ○)

「まあよい」が62.2%で最も多く、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい(計)』は68.6%となっている。一方、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない(計)』は28.7%であった。

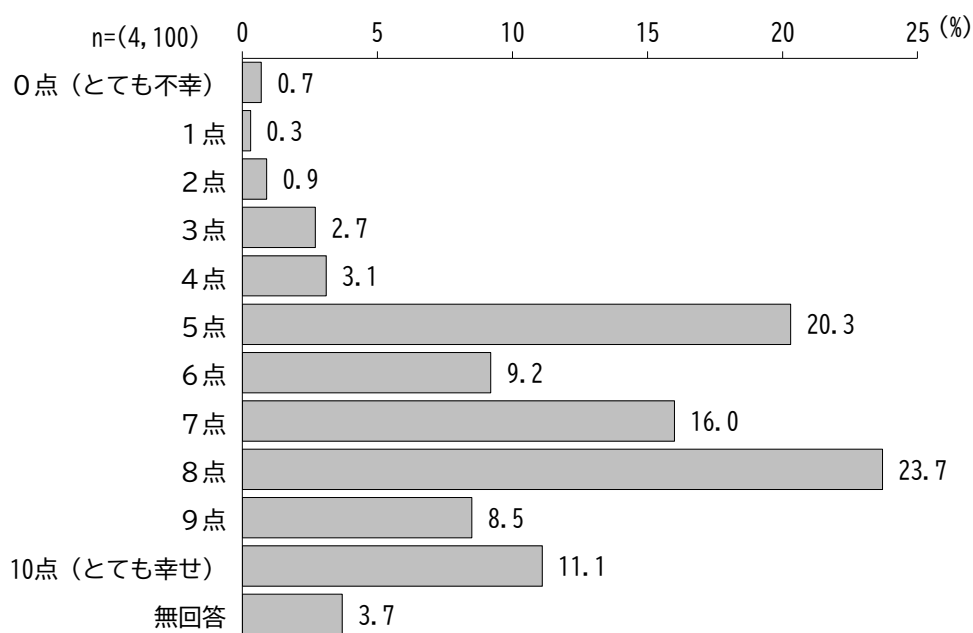


### (2) 幸福度

Q2. あなたは、現在どの程度幸せですか

【「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、□にチェックしてください】

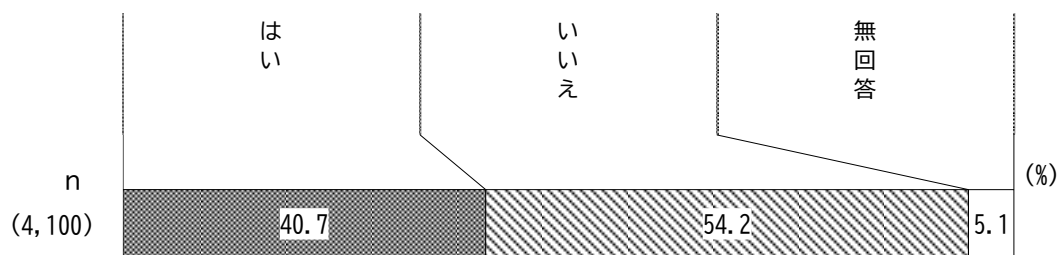
「8点」が23.7%で最も多く、次いで、「5点」(20.3%)、「7点」(16.0%)、「10点(とても幸せ)」(11.1%)となっている。また、平均点は6.9点となっている。



(3) この1か月のゆううつ感

Q3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (1つだけ○)

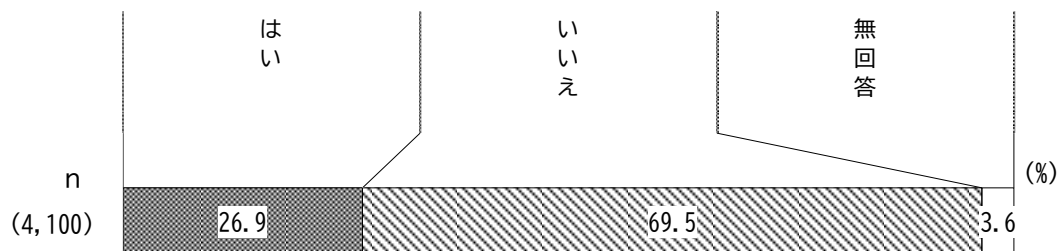
「はい」が40.7%、「いいえ」が54.2%となっている。



(4) この1か月の無気力感

Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (1つだけ○)

「はい」が26.9%、「いいえ」が69.5%となっている。



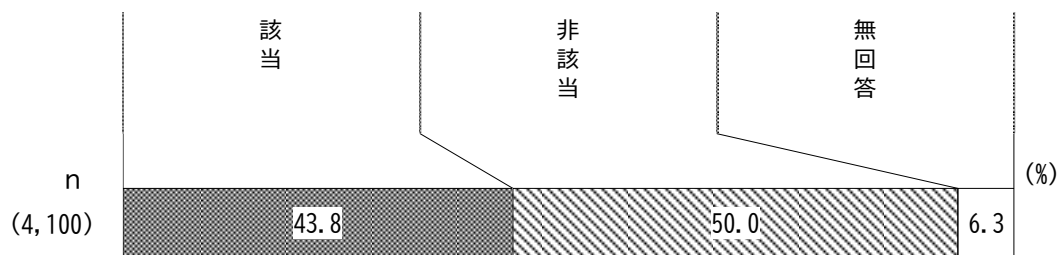
<うつ傾向のリスク>

下記の2項目中、どちらかにでも該当する場合、『うつ傾向のリスクがある高齢者』としています。

- ・この1か月間に、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりしたことがある (Q3)
- ・この1か月間に、どうしても物事に興味がわからない、心から楽しめない感じがある (Q4)

※参考：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和7年8月）

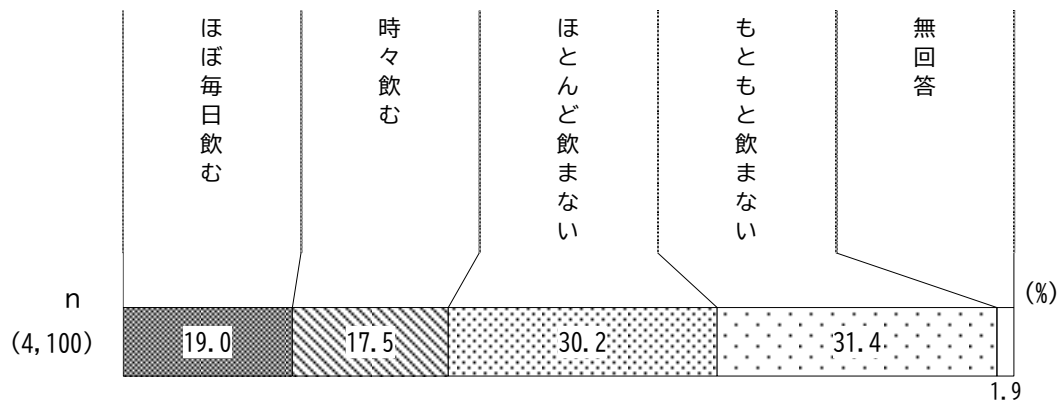
うつ傾向のリスクは、「該当」が43.8%、「非該当」は50.0%となっている。



(5) 飲酒頻度

Q5. お酒は飲みますか (1つだけ○)

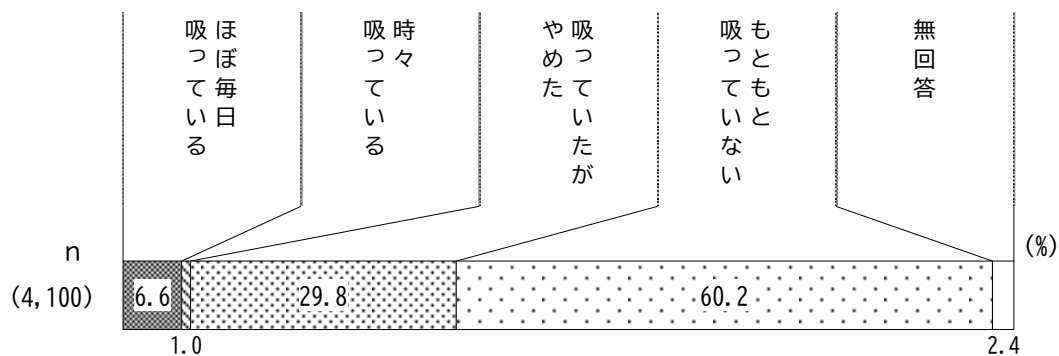
「もともと飲まない」が31.4%で最も多く、次いで、「ほとんど飲まない」(30.2%)、「ほぼ毎日飲む」(19.0%)、「時々飲む」(17.5%)となっている。



(6) 喫煙頻度

Q6. タバコは吸っていますか (1つだけ○)

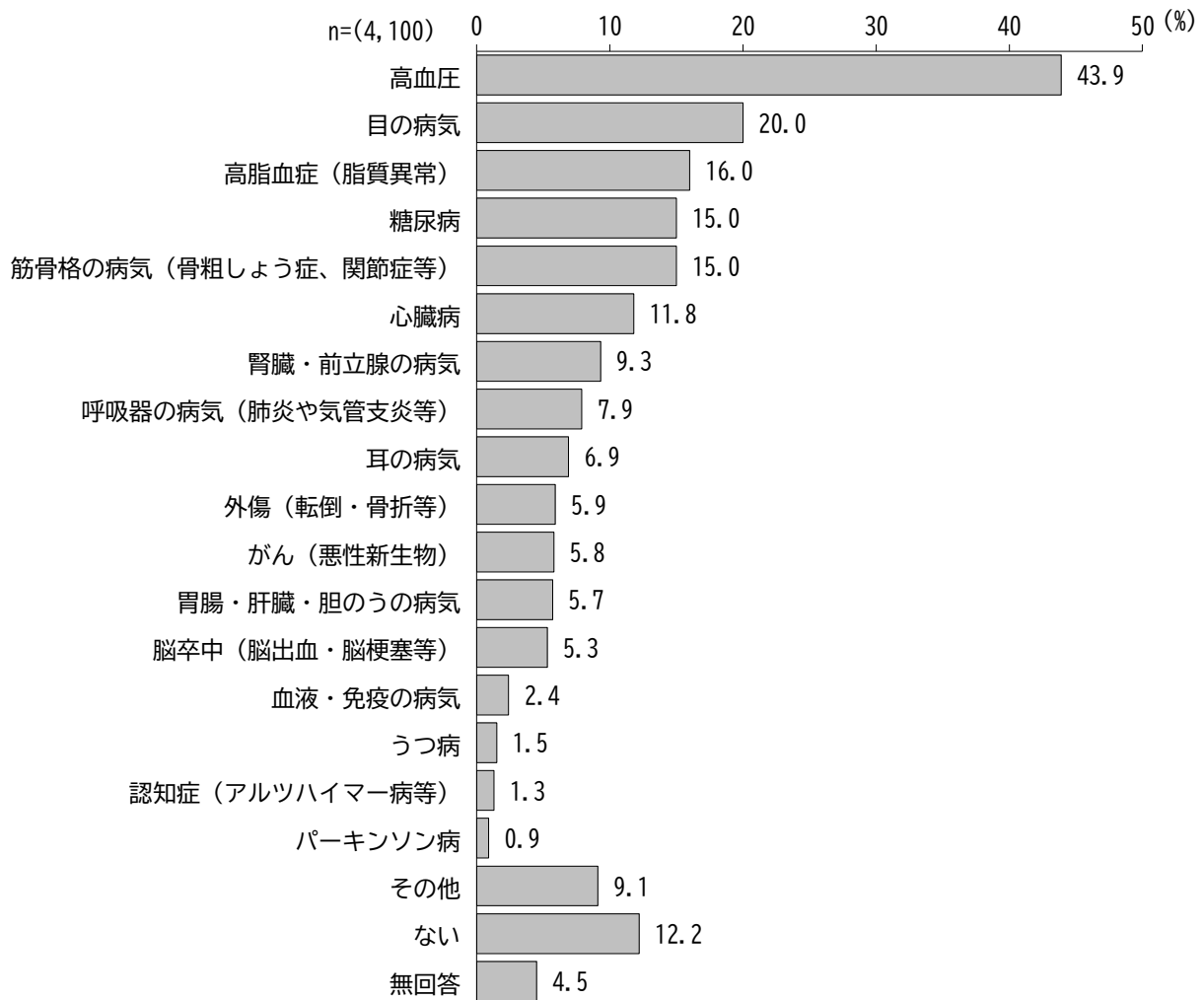
「もともと吸っていない」が60.2%で最も多く、次いで、「吸っていたがやめた」(29.8%)、「ほぼ毎日吸っている」(6.6%)、「時々吸っている」(1.0%)となっている。



(7) 治療中や後遺症のある病気

Q7. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも○)

「高血圧」が43.9%で最も多く、次いで、「目の病気」(20.0%)、「高脂血症(脂質異常)」(16.0%)、「糖尿病」、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(ともに15.0%)となっている。

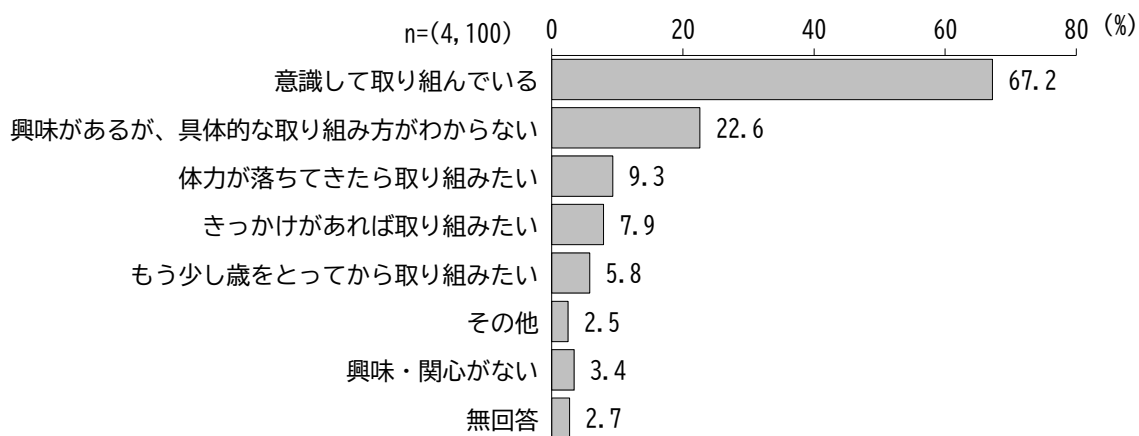


## 8. 介護予防・認知症施策

### (1) 介護予防への意識

Q1. 寝たきりや認知症など、介護を必要とする状態にならないよう、介護予防に取り組んでいますか (いくつでも○)

「意識して取り組んでいる」が67.2%で最も多く、次いで、「興味があるが、具体的な取り組み方がわからない」(22.6%)、「体力が落ちてきたら取り組みたい」(9.3%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(7.9%)となっている。

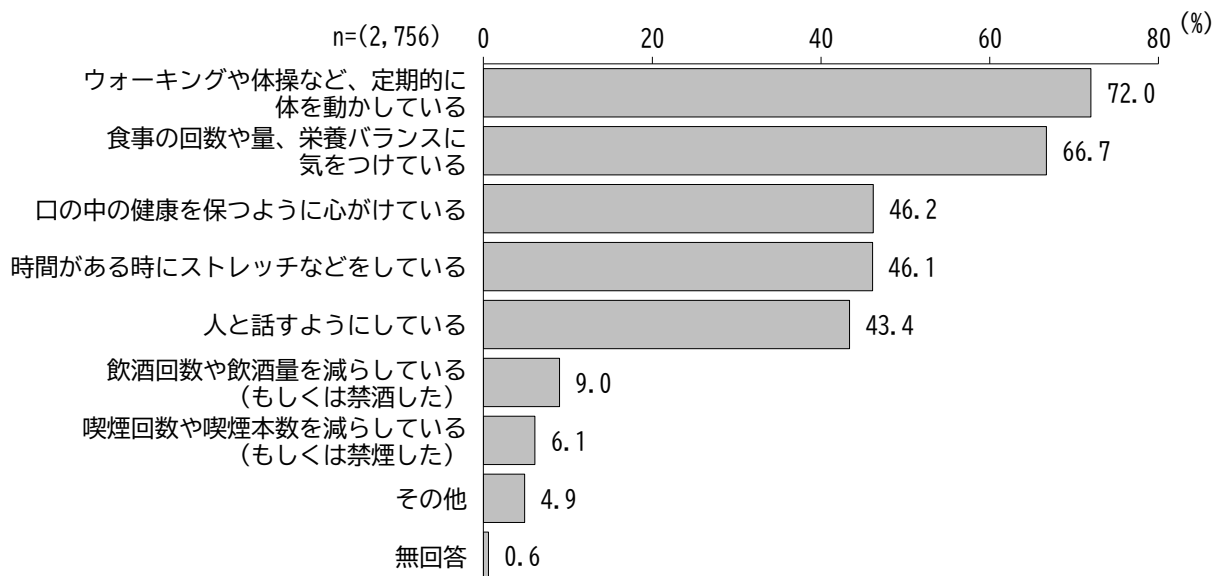


### (2) 介護予防として取り組んでいる内容

【Q1で「1 意識して取り組んでいる」の方のみ】

Q1-①. 介護予防として、どのようなことに取り組んでいますか (いくつでも○)

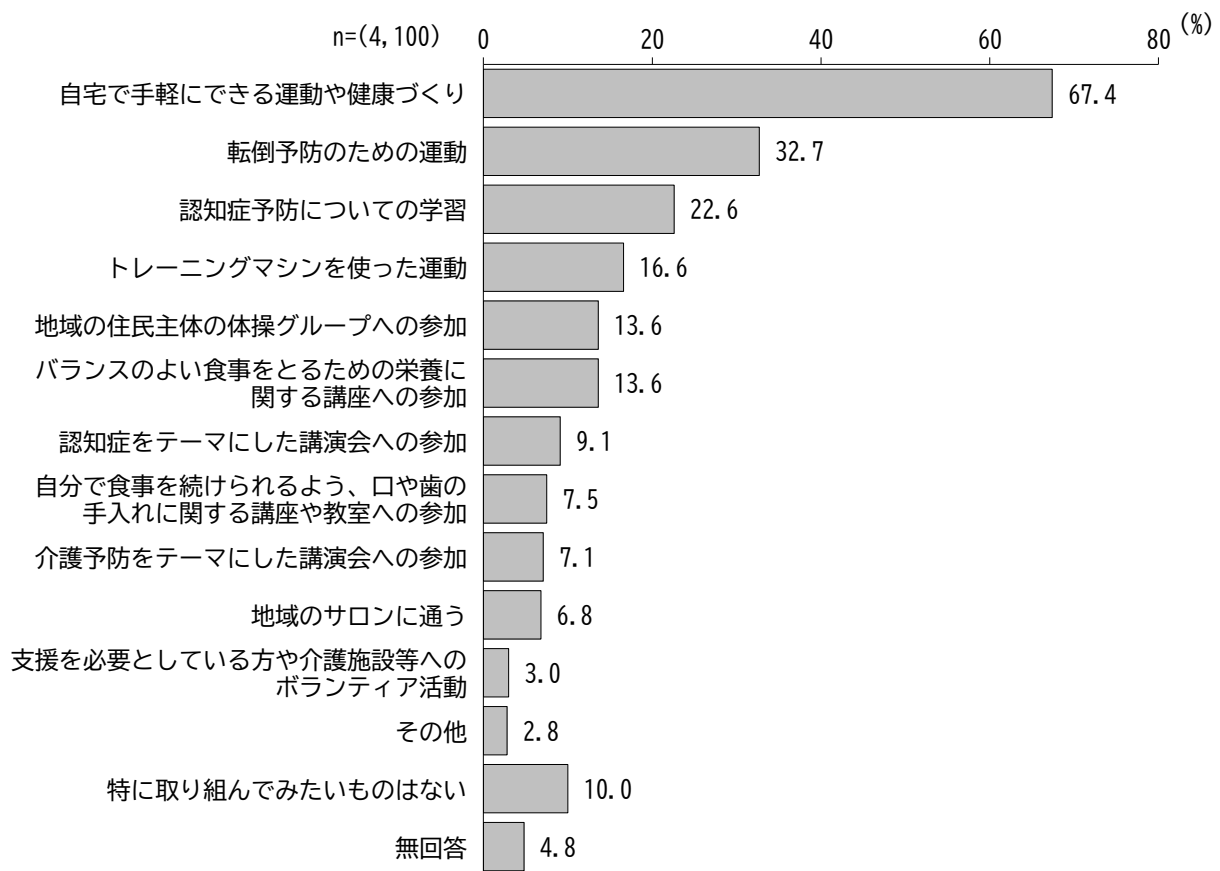
「ウォーキングや体操など、定期的に体を動かしている」が72.0%で最も多く、次いで、「食事の回数や量、栄養バランスに気をつけている」(66.7%)、「口の中の健康を保つように心がけている」(46.2%)、「時間がある時にストレッチなどを行っている」(46.1%)、「人と話すようにしている」(43.4%)となっている。



(3) 介護予防や健康づくりに取り組むとして興味があること

Q2. 介護予防や健康づくりに取り組むとしたら、どのようなことに興味がありますか。  
 また、すでに取り組んでいる方については、今後取り組みたい事項を教えてください  
 (いくつでも○)

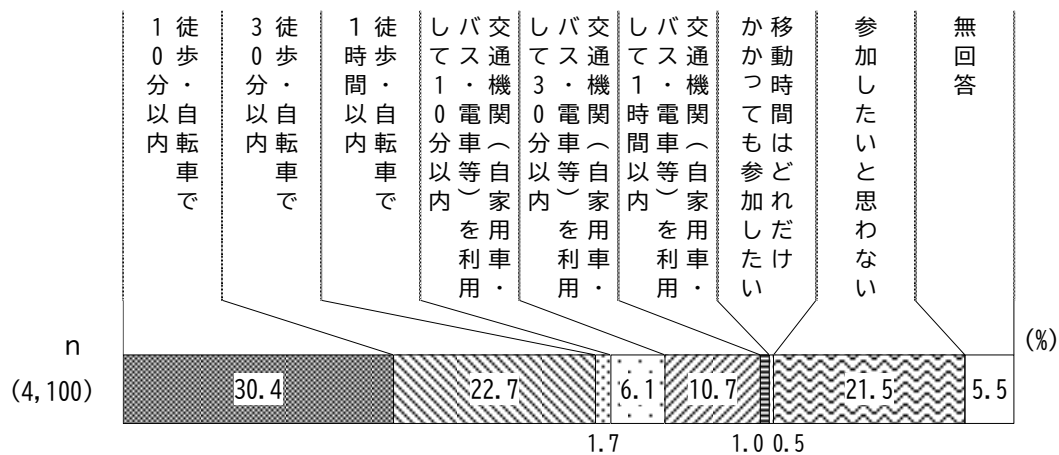
「自宅で手軽にできる運動や健康づくり」が67.4%で最も多く、次いで、「転倒予防のための運動」(32.7%)、「認知症予防についての学習」(22.6%)、「トレーニングマシンを使った運動」(16.6%)となっている。



(4) 介護予防や健康づくりに関する活動・自宅からの許容移動時間

Q3. 介護予防や健康づくりに関する活動について、自宅からどの程度の移動時間であれば参加したいと思いますか (1つだけ○)

「徒歩・自転車で10分以内」が30.4%で最も多く、次いで、「徒歩・自転車で30分以内」(22.7%)、「交通機関(自家用車・バス・電車等)を利用して30分以内」(10.7%)となっている。一方、「参加したいと思わない」は21.5%であった。

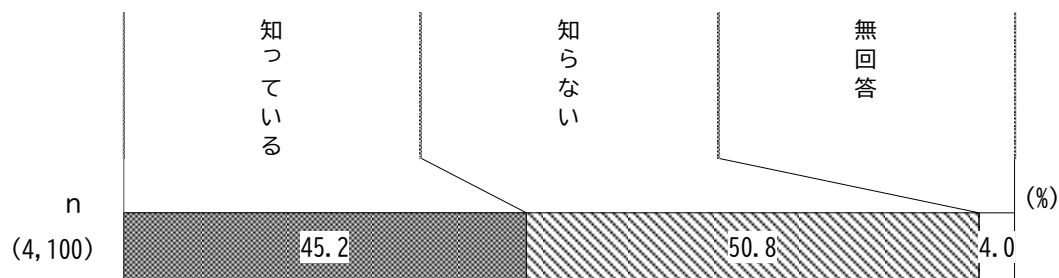


(5) フレイルの認知度

Q4. あなたは、「フレイル」をご存知ですか (1つだけ○)

※フレイルとは、「虚弱」を意味し、心身の活力(筋力・認知機能・社会とのつながりなど)が低下した状態のことで、健康と要介護状態の間の状態を指します。

「知っている」が45.2%、「知らない」は50.8%となっている。

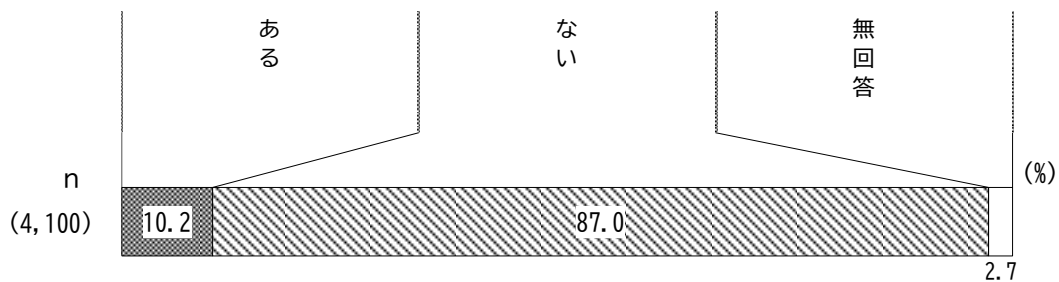


(6) フレイルチェックを受けた経験有無

Q5. あなたは、「フレイルチェック」を受けたことがありますか (1つだけ○)

※フレイルチェックとは、身体やこころ、生活の変化といったフレイルの兆候に早く気付くことを目的に、東京大学高齢社会研究機構が監修した質問票と測定を行うものです。

「ある」が10.2%、「ない」は87.0%となっている。

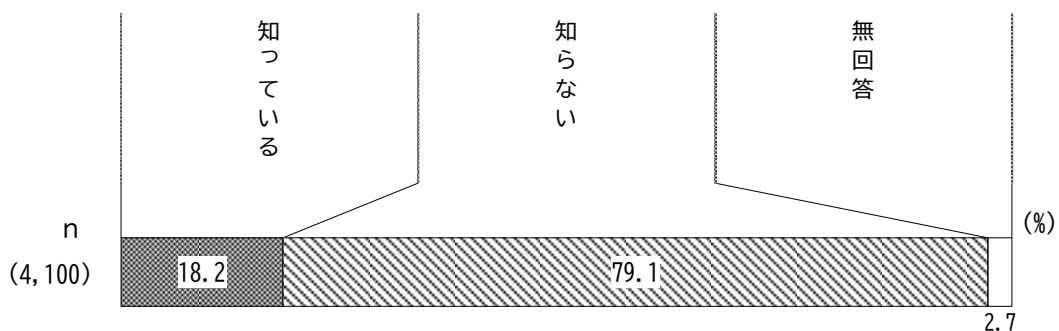


(7) 認知症サポーターの認知度

Q6. あなたは、「認知症サポーター」をご存知ですか (1つだけ○)

※認知症サポーターは特別なことをするものではなく、講座を通じて認知症についての正しい知識やつきあい方を理解し、自分でできる範囲で認知症の方や家族を応援するものです。

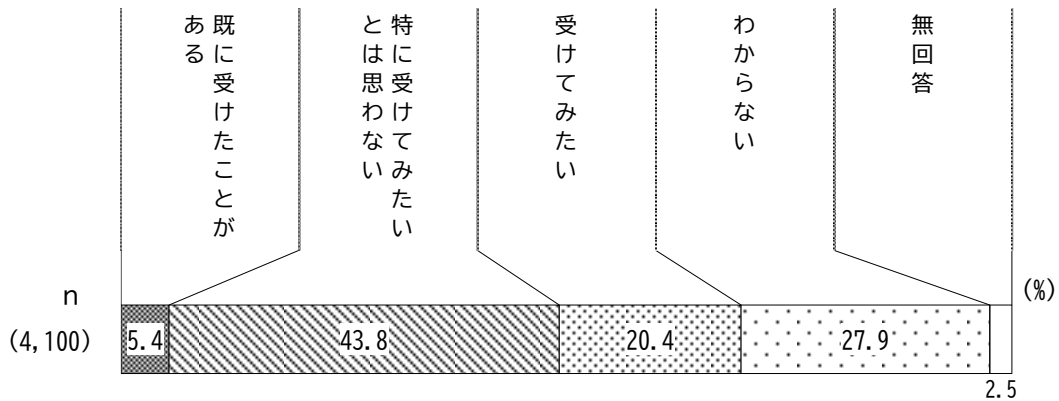
「知っている」が18.2%、「知らない」は79.1%となっている。



(8) 認知症サポーター養成講座の受講意向

Q7. あなたは、認知症サポーター養成講座を受けてみたいと思いますか (1つだけ○)

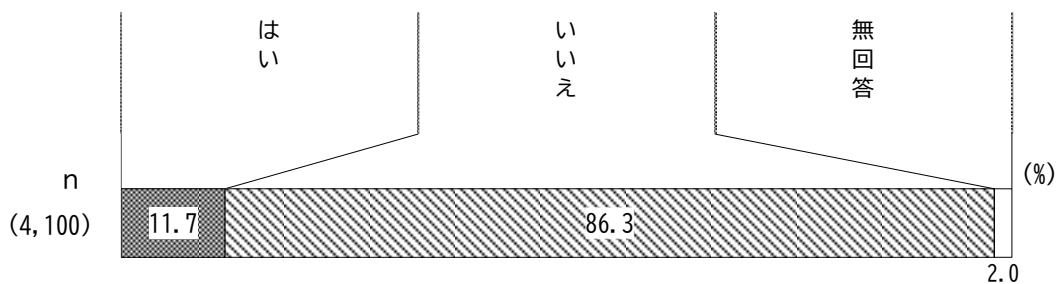
「特に受けてみたいとは思わない」が43.8%で最も多く、次いで、「わからない」(27.9%)、「受けてみたい」(20.4%)、「既に受けたことがある」(5.4%)となっている。



(9) 家族の認知症症状の有無

Q8. 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (1つだけ○)

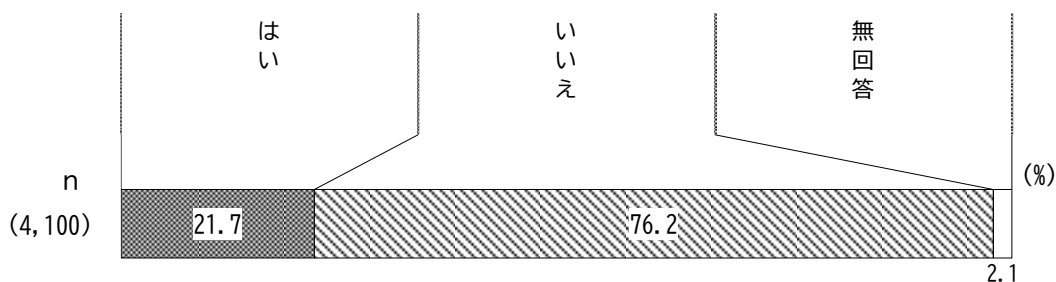
「はい」が11.7%、「いいえ」は86.3%となっている。



(10) 認知症相談窓口の認知度

Q9. 認知症に関する相談窓口を知っていますか (1つだけ○)

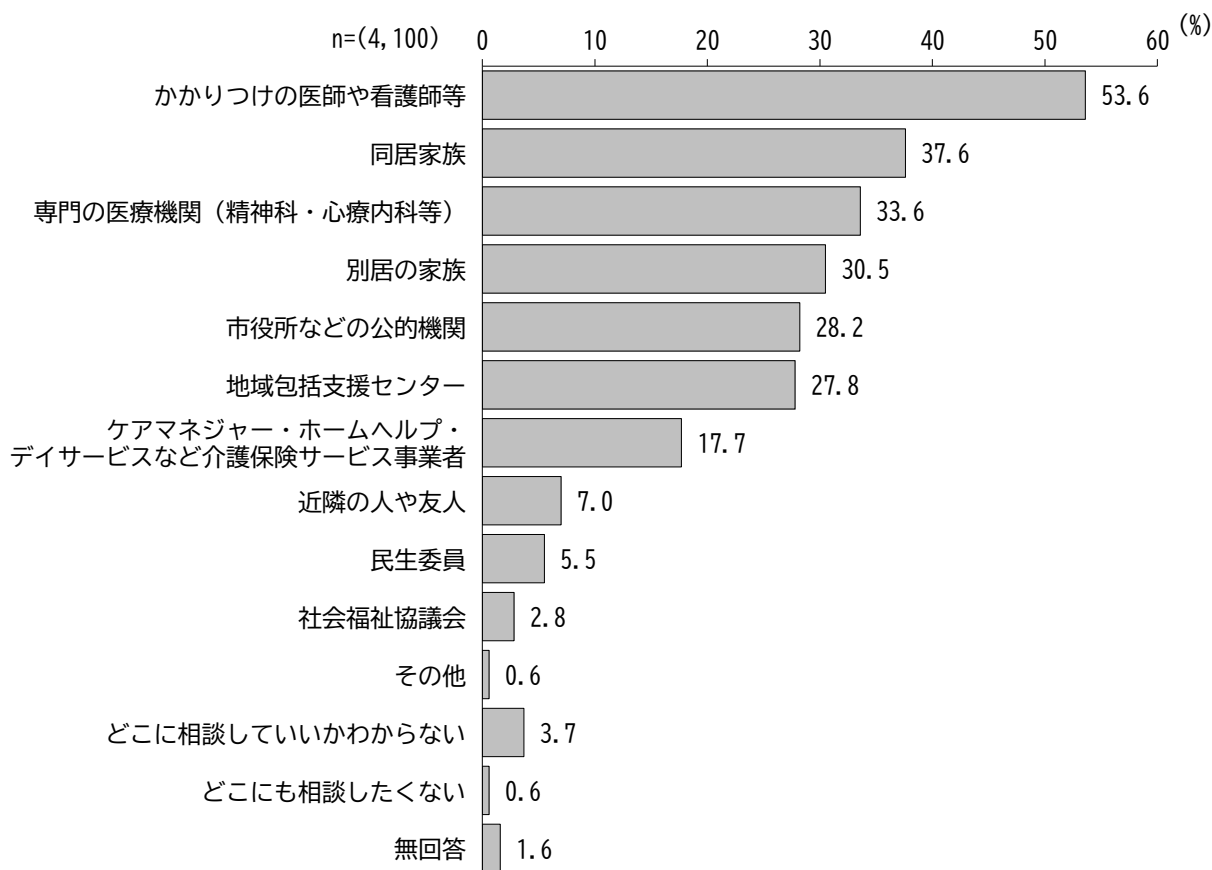
「はい」が21.7%、「いいえ」は76.2%となっている。



(11) 認知症の疑いがあるときの相談先

Q10. あなたご自身やご家族に認知症の疑いがあるとき、まずどこに相談すると思いますか (いくつでも○)

「かかりつけの医師や看護師等」が53.6%で最も多く、次いで、「同居家族」(37.6%)、「専門の医療機関(精神科・心療内科等)」(33.6%)、「別居の家族」(30.5%)、「市役所などの公的機関」(28.2%)、「地域包括支援センター」(27.8%)となっている。

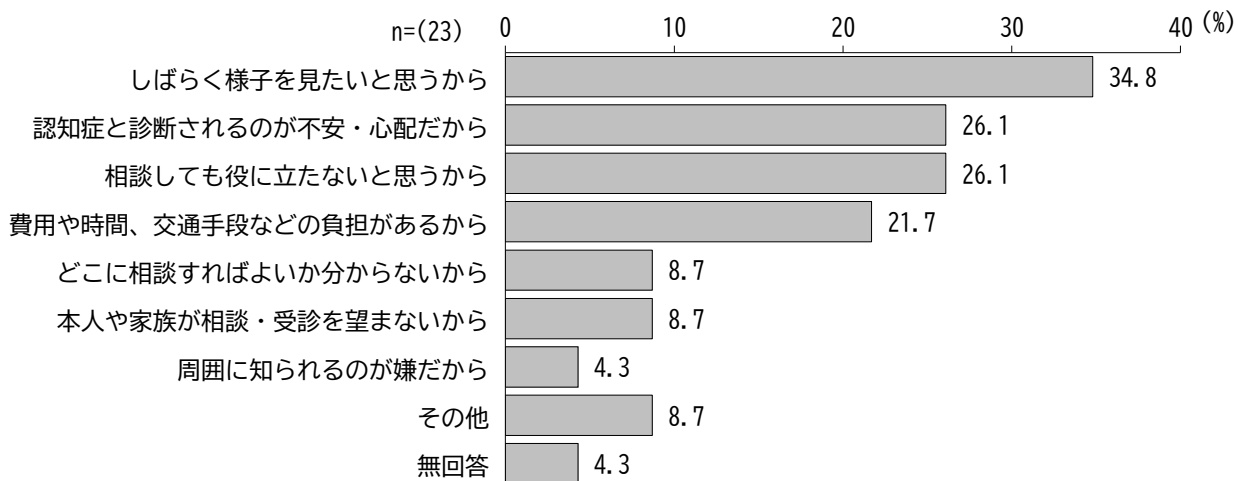


(12) 相談機関に相談したくない理由

【Q10で「13 どこにも相談したくない」の方のみ】

Q10-①. 相談機関に相談したくないと思う理由は何ですか (いくつでも○)

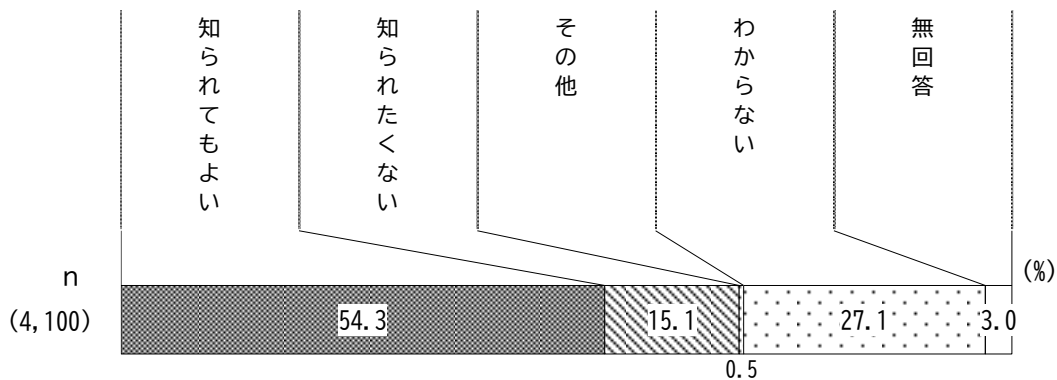
n数が23サンプルであるため参考値としてみると、「しばらく様子を見たいと思うから」が34.8%で最も多く、次いで、「認知症と診断されるのが不安・心配だから」と「相談しても役に立たないと思うから」がともに26.1%となっている。



(13) 認知症になった場合の周囲の認知

Q11. あなた自身が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか (1つだけ○)

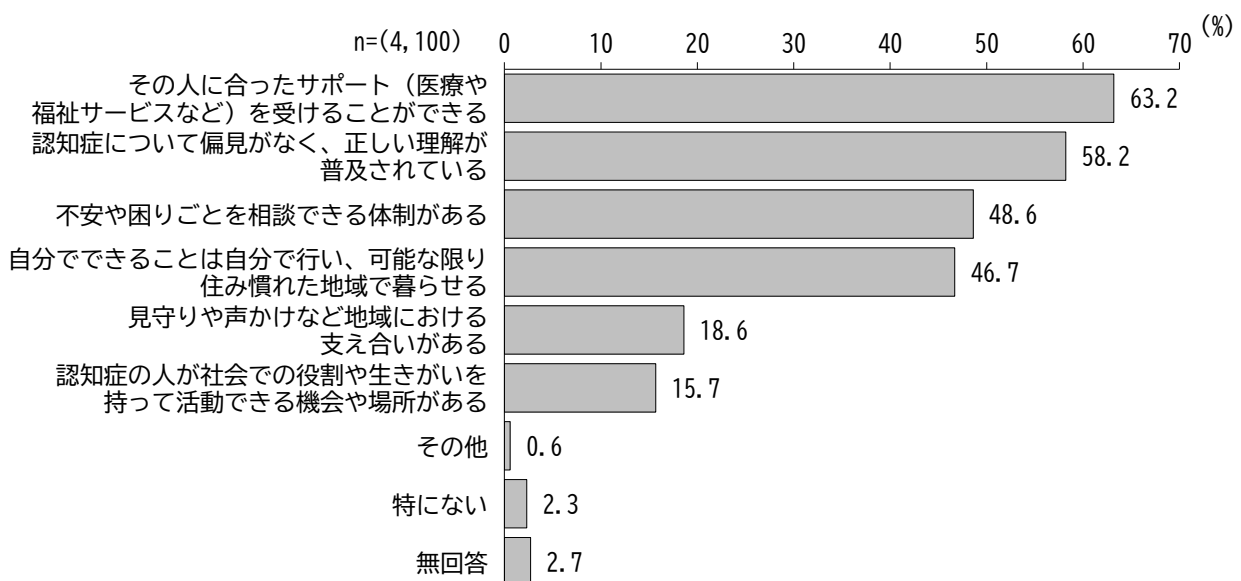
「知られてもよい」が54.3%で最も多く、次いで、「わからない」(27.1%)、「知られたくない」(15.1%)となっている。



(14) 認知症の人にとって安心して暮らせるまち

Q12. 認知症の人にとって安心して暮らせるまちとは、どのようなまちだと思いますか (3つまで○)

「その人に合ったサポート (医療や福祉サービスなど) を受けることができる」が63.2%で最も多く、次いで、「認知症について偏見がなく、正しい理解が普及されている」(58.2%)、「不安や困りごとを相談できる体制がある」(48.6%)、「自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らせる」(46.7%)となっている。

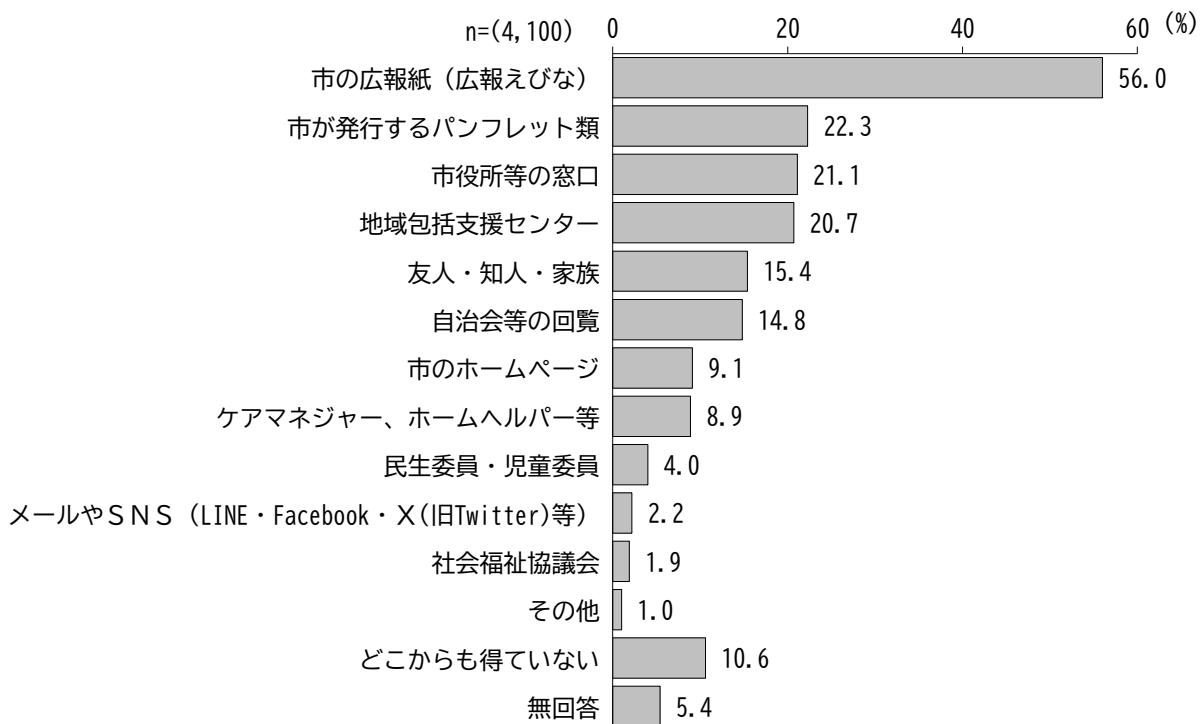


## 9. 市の施策・事業、介護保険制度

### (1) 市の高齢者福祉、介護保険の情報入手先

Q1. 市の高齢者福祉、介護保険についての情報は主にどこから入手していますか  
(3つまで○)

「市の広報紙（広報えびな）」が 56.0%で最も多く、次いで、「市が発行するパンフレット類」（22.3%）、「市役所等の窓口」（21.1%）、「地域包括支援センター」（20.7%）となっている。

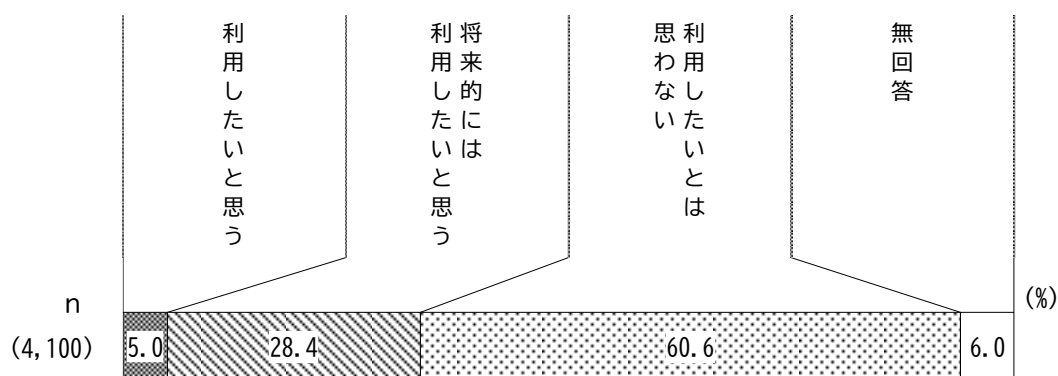


(2) 成年後見制度の利用意向

Q2. あなたは「成年後見制度」のような制度を利用したいと思うことがありますか  
(1つだけ○)

※成年後見制度とは、認知症等により判断能力が十分でない方に代わって、法的に権限が与えられた成年後見人等が、財産管理や生活や健康の維持、療養等に関する事を行い、本人が安心して生活できるよう保護・支援する民法に基づく制度です。

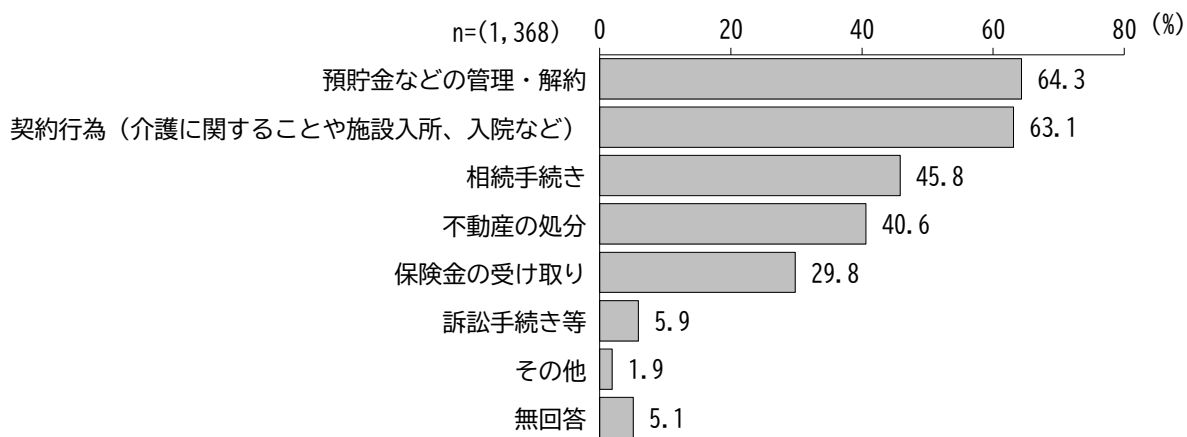
「利用したいとは思わない」が60.6%で最も多く、次いで、「将来的には利用したいと思う」(28.4%)、「利用したいと思う」(5.0%)となっている。



(3) 成年後見制度が必要な場面

【Q2で「1 利用したいと思う」「2 将来的には利用したいと思う」の方のみ】  
Q2-①. 「成年後見制度」は、どのようなことで必要だと思いますか (いくつでも○)

「預貯金などの管理・解約」が64.3%で最も多く、次いで、「契約行為 (介護に関することや施設入所、入院など)」(63.1%)、「相続手続き」(45.8%)、「不動産の処分」(40.6%)となっている。

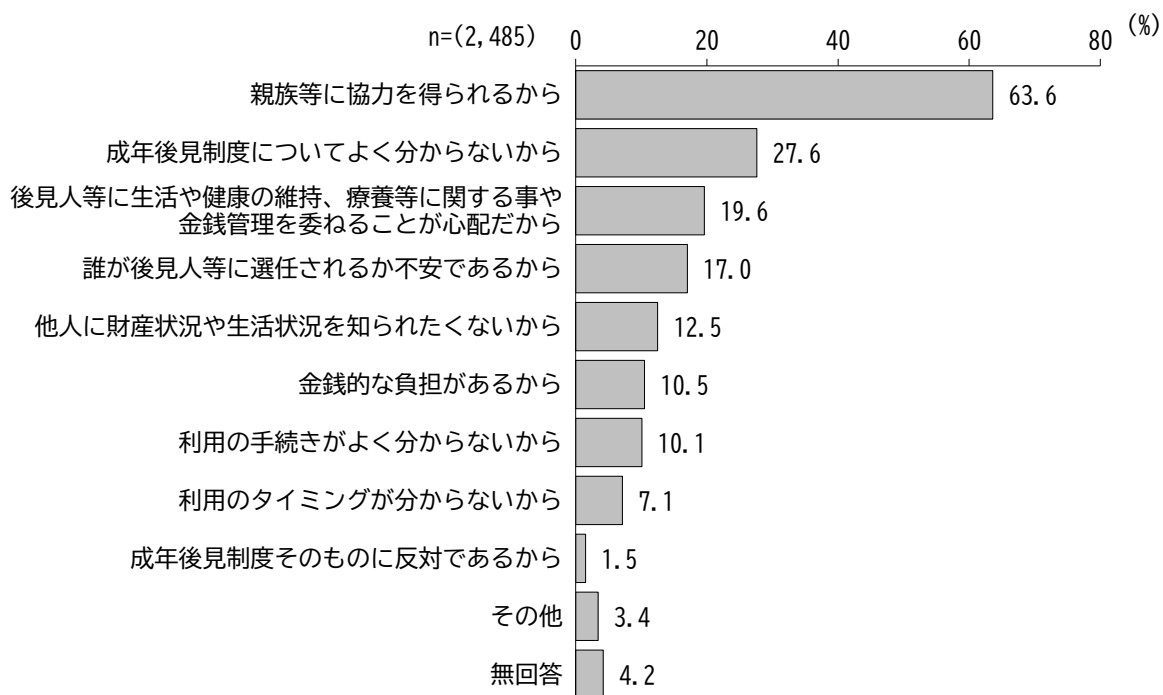


(4) 成年後見制度を利用したいと思わない理由

【Q2で「3. 利用したいと思わない」の方のみ】

Q2-②. 「成年後見制度」を利用したいと思わない理由は何ですか (いくつでも○)

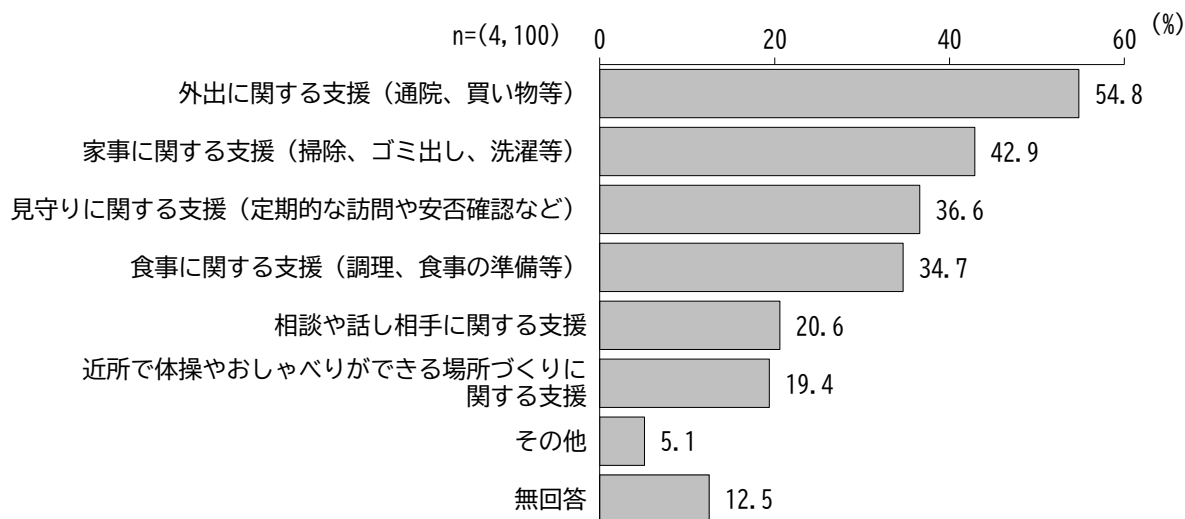
「親族等に協力を得られるから」が63.6%で最も多く、次いで、「成年後見制度についてよく分からないから」(27.6%)、「後見人等に生活や健康の維持、療養等に関する事や金銭管理を委ねることが心配だから」(19.6%)、「誰が後見人等に選任されるか不安であるから」(17.0%)となっている。



(5) 地域で生活し続けるために必要と思うこと

Q3. あなたが、お住まいの地域で生活し続けるために必要と思うことを教えてください  
(いくつでも○)

「外出に関する支援（通院、買い物等）」が 54.8%で最も多く、次いで、「家事に関する支援（掃除、ゴミ出し、洗濯等）」(42.9%)、「見守りに関する支援（定期的な訪問や安否確認など）」(36.6%)、「食事に関する支援（調理、食事の準備等）」(34.7%)となっている。

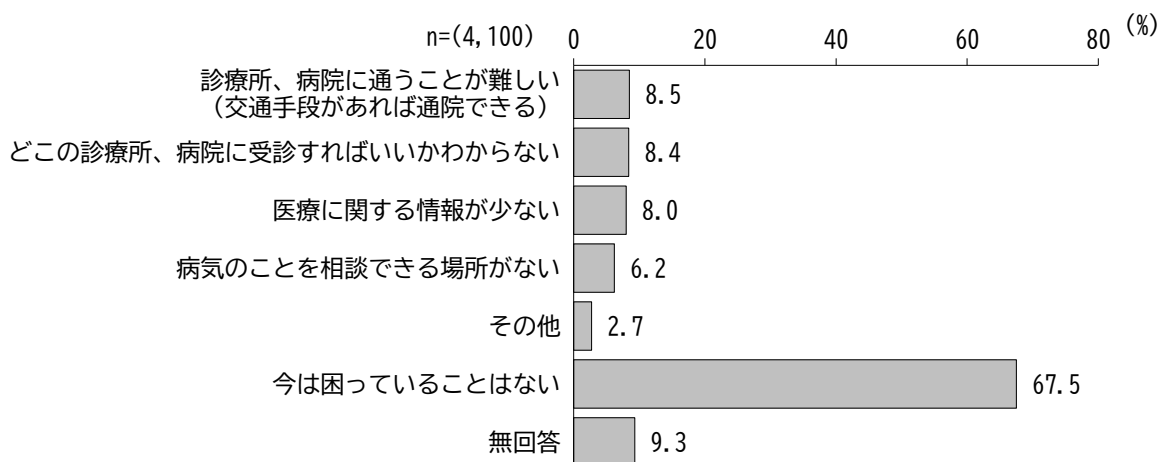


(6) 医療に関して困っていること

Q4. 医療に関して困っていることはありますか (いくつでも○)

「診療所、病院に通うことが難しい（交通手段があれば通院できる）」が 8.5%で最も多く、次いで、「どこの診療所、病院に受診すればいいかわからない」(8.4%)、「医療に関する情報が少ない」(8.0%)、「病気のことを相談できる場所がない」(6.2%)となっている。

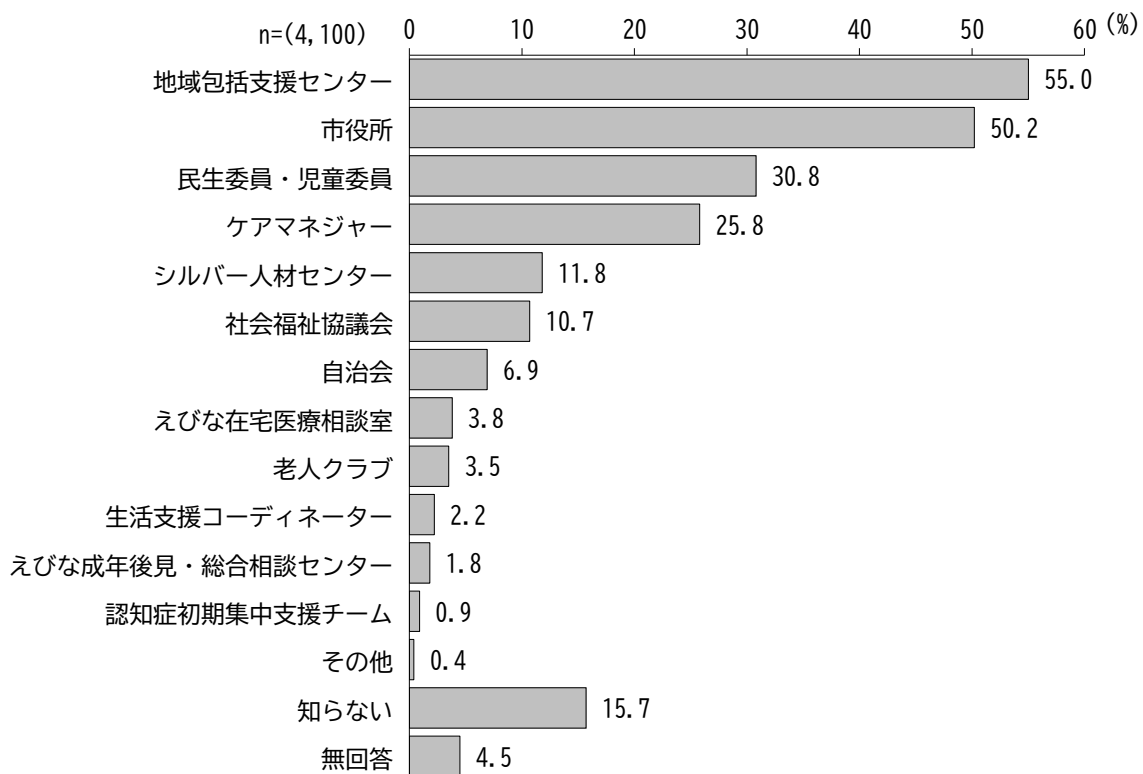
一方、「今は困っていることはない」は 67.5%であった。



（7）高齢者に関する相談窓口としての認知

Q5. 高齢者に関する相談窓口を知っていますか（いくつでも○）

「地域包括支援センター」が 55.0%で最も多く、次いで、「市役所」（50.2%）、「民生委員・児童委員」（30.8%）、「ケアマネジャー」（25.8%）となっている。



(8) 介護が必要になった時の生活の場などの考え

Q6. あなたが、寝たきりや認知症などで介護が必要になった時の生活の場などについてのお考えを教えてください (もっとも近い考え1つのみ○)

「自宅で介護サービスを利用し、重症化したときは入院したい」が 32.7%で最も多く、次いで、「施設で暮らしたい (特別養護老人ホーム、有料老人ホームなど)」(29.1%)、「自宅で、主に介護サービス等を利用したい (家族と暮らしたい)」(24.7%) となっている。

